

6520 15.4.1



晩秋の樽前山…支笏湖より 藁目 英三

緑 丘

全 国 版

(通巻)No. 28号
(37年度 4号)

大阪市北区曾根崎新地
日本電気機器株式会社内
緑丘大阪支部

編 集 部
大阪市東区道修町三の一
塩野義製菓株式会社内
藁 目 英 三

晩 秋 の 北 海 道

森 下 弘

(大正十四年)

華やかな観光夏の北海道の騒々しさも林檎や唐きびの声と共に静けさを取り戻し始めたかと思ふと北海道の秋更けは急にやって来る。この頃の北海道の特色は何といつても一雨毎に冬来を思はせる時雨であろう。とたん屋根を打っては去って行く雨足。

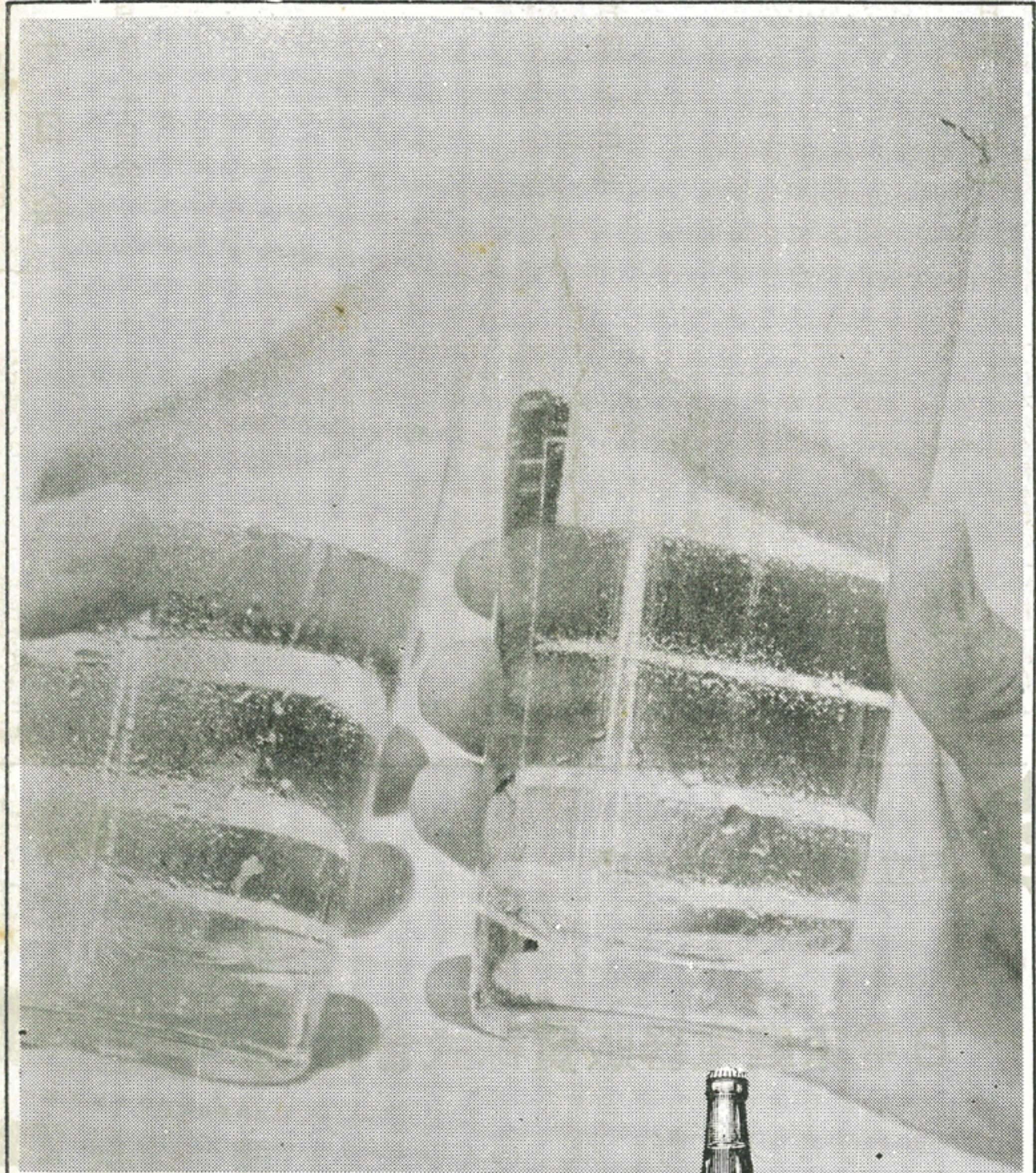
残葉、落葉の林にしとしと降りそそぐ雨音。そして其の時、身にも心にも冷たさを感じ北海道の自然の心なしさをしみじみ感ずるのである。それは恐ろしい冬への先ぶれでもあり春迄のあきらめを誘ふ自然の営みのようでもある。だが其の冷たさ、其の心なしさこそ何時迄も残る北海道の魅力ではあるまいか。

所謂「北見晴れ」という詞がある。冬近い涯果北見では敢くまですんだ敢く迄美しい天気が続く。人々はこの自然の僅かばかりの心使いにひたすらとり入れや冬仕度にいそしむ。そして陽の光を心行く迄むさぼ

り食う。冬が厳しければ、それだけに自然の最後の恵みである晩秋が有難く、際立って見えるのである。其の昔、冬近い鯨場では来る春のやん衆に備えて大根乾しに忙しかった。鴨の鳴く沖の海は青いというよりか、むしろ黒味を帯びていた。誰かの口ずさむ追分は寄せては返へず濤声の中に消えて行った。だがこうでした漁場の晩秋も今では唯、思い出でしかなくなってしまった。

秋更けの一夜、奥土別の宿の窓から仰いだ恐ろしい迄にさえた星の色。陽も落ちた頃、上川から層雲峽へ向う車の前を横切った熊の思い出。黄葉を見に来て翌朝、目ざめて驚いた初雪の定山溪。秋も深くなった頃「緋の衣」を求めて久方振りに訪れた余市の林檎園等思い出は尽きない。忘れ得ぬものこそ晩秋の北海道。(緑丘会京都支部長 日本新薬

(株)社長)
(一九六二年十一月四日)



世界のビール三大名産地

München ← 札幌 → Milwaukee

(ミュンヘン) (サッポロ) (ミルウォーキー)



本場の味
サッポロ
日本麦酒株式会社

(姉妹品) リボンシロン・リボンジュース・リボンコーラ



大野純一先生 退官記念号を読んで

学長 加茂儀一

大野先生の特集号も本心に心をこめた出来工合でいまさら同先生の大学を去られた事を惜しんでいる次第です。それにしても大変な御苦勞を編集にかけて頂いた事を御礼申し上げます

大野純一 今般私のために御苦勞下さいましたことに心から感謝いたします。執筆下さいました方々に御礼状差上可きですが緩り一人一人の方に何ヶ月計画かて書きたいと思ひ未だ皆様に挨拶もいたしていません。その中

ボツボツ形式的でない昔を偲んだ御便り差上げ度く存じております。先日同窓の一人があれは会報というより一冊の著書のようなものだ驚いておりました。あんな立派な計画があったのなら僕も書きたかったと云つてくれる人も何人かおりました。厚く御礼申し上げます。

大10 寺田弥一郎

大野さんは小生の在学中二級上級で入学の当初、学生出入口の掲示板に優秀進級生として大友、南、藤井の諸氏と共にその名が貼り出されて来た様に記憶しております。承知していましたが地味で温厚の君子だったためか、お顔はハッキリ覚えていませんでした。ところが今回特集号に載せられた同氏の若い頃の写真を拝見し、成るほどこの人なら覚えがある。四十四年前の記憶が蘇りきた多数同窓諸兄の投稿によって大野さんの略歴お人柄、母校のため永年尽瘁された幾多の功績などを詳細に判ることが出来ましたのは望外の収穫で、全誌を通じて感銘深きものがありました。申すまでもなく関西緑丘紙本来の面目躍如たるものあり、御努力を感謝し御同慶の至りです。

大15 西野嘉一郎

大変立派な出来ばえいつもながら感心致します。大野先生も、大変喜

んでおられるでしょう。

大九 菅谷 重平

冊子がよく編集出来ています。大野さんと云う人が、各方面から非常に慕われて好意をもたれている事が良くわかります。大野先生はいい先生です。

大八 戸井 正三

緑丘到着、誠に立派な編輯振りで驚嘆しました。拙稿も良い処にのせていただき光栄です。

昭一七 大庭 定男

ともかく力作です。御仕事の傍にこれだけのものをまとめた御努力に脱帽いたします。

大15 西川 正己

実に見事な出来ばえで、ただ企画のヒントをお与えしただけの私には正に驚異の一語に尽きます。暮目さんの努力の結果です、その第一の功績者暮目さんの名よりもまっ先に編集後記で「この特集号は西川正己さんの企画によるものです」と書いて頂いて身に余る面目です。今後の緑丘の一層の発展を祈ります。

大五 青田 滝蔵

大変の御努力によって立派なものが出来感嘆の外無く、大野先生、満足と存じます。

昭十一 小野寺 佐

暮目君およびその他の編集員の手腕力等に今更ながら舌を巻いております。唯々敬服します。

昭二 木曾 栄作

まことに意義深く内容充実した記念号にて編集者の御苦勞のほど感謝しております。

昭五 森松 定男

非常に立派な内容で御編集に対して敬意を表します。単なる月信に終らせるには勿体ないのでむしろ単行本にしていい位でないでしょうか。

昭五 進藤 真一

こんな部厚い号に作られた御努力を敬服の他、ありません。大野先生には、教ったことも、特別にお目にかかる程のことでもなかったのですが、尤も小生の名前は知っておられた、らしいですが、今度学長、学者、先生としての全貌が判り一気に、読了感謝します。

昭二 黒羽 秀夫

御苦勞さまでした。大変なお骨折りだったでしょう、いつもの事とは云いながら、土曜日帰宅すると配達されていたので夕食後手にし一夜にして読み終えました。

昭一 越崎 清二

これだけのボリュームを纏め上げる

念で一杯唯々今後の御健在あらん事を心から祈っております。

昭一二 岡本 元次

感激の一語でした、私は今勤務先が変り、車で片道一時間を要します。ふだんは眼が疲れるので車中では殆んど本を読みませんが、この特集号を手にした日は在学当時を思い出し乍ら運転手に着いたことを言われる迄感慨にひたりました。真にいい意味の緑丘一家をしてみじみ味わいました。終りに大野先生の御健康と編輯に御骨折下さった皆様に深く感謝と敬意を表します。

昭二 渡辺 祥吉

非常によい企てであり編集も立派でした。先輩方や同期の方々の名文によって単に先生をしのぶばかりでなく母校に対するなつかしさが心の底からよみがえりました、深く感謝致します。

大一一 相沢 正美

誠に時宜を得た企画、且つ周到な編集には心から敬意を表します。地元にいる我々が怠けて一向に行き届かぬ事を相済まなく思っています。

大一一 佐藤 信雄

大野先生は私が三年になった時に小樽へ来られ私は先生の分科(今の

背後にひそむスタミナは何処から出るのだろうか。挿入のカットにも寸分もとどまることのない躍動がにじみ出ている。ただ頭が下がるばかりだ。

大一一 木村 慶七

立派な内容と名編集振りに驚き入りました。本当になつかしく殊に若いグループ諸君の力強い御発表も嬉しく拝見致しました。

昭九 寺尾 八郎

執筆者に切れ目が多すぎた、初講から終講までの各事業年度は一名宛動員して欲しかった。

大一一 堀川 源作

只々感謝感激、編集部のお努力に對し頭の下がるのみである。

大一一 大久保鹿弼

全体として非常によく出来ており、まず、原稿の蒐集、編集、校正など大変な御苦勞であったと推察、御苦勞をねぎらい申し上げます。強いて難を云えば若い界層の方々の原稿がない事が淋しいと思ひます。

大一一 田中 実

大野さんは私共の緑丘同期先輩、初代小樽商科大学長に御就任から二度程小樽商科大学長室に親しく面談しました。初回は四十五周年記念祭、第二回は五十周年記念祭の時、私が感ずる大野さんに対する感じ

は the approachable 即ちいばらぬおごらぬ、実によく出来た人間だという事です。

大一一 桜庭亥一郎

拝読させて頂き今更ながら大野先生の母校に尽された御功績の如何に大きく数多いものがあったことが思われ深く敬意を表します、そして沢山の緑丘同窓の方々から思出の寄稿のあったことは即ち先生の高い御人格によるものと尊敬の念に堪えませ

大一一 神沢 重治

大正十一年卒の私どもは学生としての先生も教授としての先生も知りませんでしたが後年私が北陸銀行札幌支店へ赴任するに及んで学長としての先生に幾度もお目にかかる機会を得ましただけに今度の記念号は感銘の深いものがありました。

大一一 宮地 邦介

全国唯一の商科大学誕生の苦心談がこの記念号で同窓各位に衆知されたことは大きな成果である。大野先生の後を慕うと共に益々母校愛に徹したいと思つた。

昭八 能沢 正義

大野先生を中心としての同窓諸氏の記事を沢山拝見させて頂き感激久しきものがありました。小生も先生のゼミナールの一員として親しく教えを受けたものの一人だけに感謝の



極楽会 天野支部長挨拶

'62 第13回 地獄会 名物

10月18日

(京阪神若ものの集い)

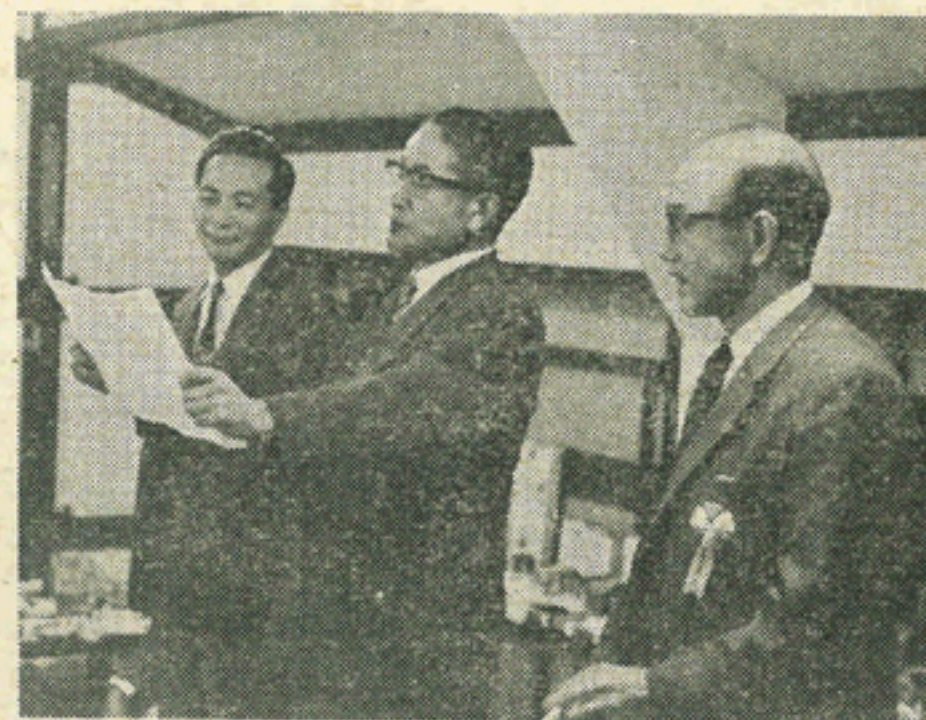
今は早や!!
緑丘若人よ来れ、飲め、語れ、そして歌え!

緑丘地獄会昭和三十七年度大懇親会を開催する。場所は大阪のニュー・ミュンヘン
奥さんのよろこぶ——余興大コンクール——出席者は必ず賞品持帰り用の風呂敷持参のこと
と案内を出した所ノドに自慢の面々総勢四十五名集う。残念乍ら出張のため出席出来ぬという返事が三十二名あった。

定刻六時に遅れること二〇分、名司会者若山永太郎氏(昭一三)の司会により幕が開く、世話人代表墓目英三氏(昭一一)から地獄会のいわれを説明、緑丘誌代を納められぬ様な輩には今後この地獄会の案内はせぬとさびしい宣言をする。

極楽会(未結成であるが気運はさかん)代表天野大阪支部長から若もの集いを賞讃する祝辞をいただき今回この地獄会のため快心の賞品を寄贈されたスポンサーを司会者から披露する。

日電家庭電器販売(株)室内大螢光燈他五十点
松下電器産業 大型アルバム五冊
兼松毛織から婦人用子供用ブリーツスカートネッカチーフなど多数
日本ビールから生ビール四ダース
不二製油から天プラ油一升缶五缶
三洋電機(株)からガステーブルおよび懐中電燈一〇ヶ
雪印乳業からチーズ(テーブルに盛付け)
松村タオルからタオル五〇本
関西新世紀乳業からアイスクリー



審査員宣誓風景

ム出席者一同へ

墓目世話人代表から油絵一枚一つ一つに真心こめて商品の説明をする。毎年集まる商品の山は世話人若山氏の努力の結晶である。

地獄会には歓迎ストームがつきものだ、新入会員(昭三七)の審査が始まる。小林明夫(丸嘉佛)松永晟(ナショナル)下桐修(日魯)末武勉(日立造船)中田昭男(西島製作所)の五君正面舞台上に坐り自己紹介に続いて得意のノドの披露に及ぶが先輩の前では胸がドキドキで唄えない。君ケ代でもいいぞ、声が低い!と先輩たち次々に気合いを入れる。歓迎ストームこそと許りヤジで会場はどっとわく。若山司会者からパトンを受け継いだ司会者山内氏(昭一六後)は新入会員への同情心がわいて「皆さん新入会員を地獄会メンバーとして承認いただけますか」と満場の諸君に問えば、一同拍手を以



賞品を背にした墓目世話人代表(左)

って何れもバスと答える。いよいよメインイベントに入る。初めての司会者にしては仲々うまい。ユーモアにとんだ山内司会者の運びがビールのうまささらには高めた。
例年の如く宣誓書は審査委員長畔柳氏(サッポロビール庶務課長)によって読み上げられる。今年の審査委員は渡辺氏(サッポロビール)墓目世話人代表の三氏で公正無私を誓う。
トップは笹島公平君(昭三六)のオテテツナイデにはじまった。司会者に女が怒し云んですという。何するんだ。オテテツナグンです。よしよし。こんな調子で笑いごとまらない。
赤谷君はカチューシャを露語で唄い、やんやの喝采を受ける。
十番程進んだ頃にニュー・ミュン

へん女性の歌謡曲をアトラクションとして入れる。審査委員長はビールを一杯飲んでから、唄わんと減点するぞと時々審判席から声をあげる。十一番目に出た栗原君(昭一四)芸がないのでビールを飲みますと一気にシヨッキを空にする。
阿波踊の岡部君(昭三三)アイルランドの村娘の清水君(昭一六後)何れ劣らぬハチ巻、ネッカチーフといういでたちで三十番まで進められた。
中でも越智君(昭一七)大道商人ガマの油売りを披露してグランプリを獲得した。
厳正審査が別室で行なわれ、その間各寮歌の合唱が次々と各寮出身者によって歌い続けられる。
審査結果が次の様に発表された。

- 一位 越智直行(昭一七)
- 二位 山内孝(昭一六後)
- 三位 北村幸(昭一四)
- 三位 若山永太郎(昭一三)
- 四位 山田光男(昭一七)
- 五位 天野雅司(極楽会)
- 五位 岡田三郎(極楽会)



司会のパトンを渡す若山世話人

五位 清水摂三(昭一六後)
六位 木村章三(昭一三)
七位 和田益太郎(昭一三)
八位 神谷彰三(昭一五)
九位 岡部良造(昭三三)
十位 藤井幸男(極楽会)
以下紙面の都合上割愛させていただきます。
今年の地獄会には現在流行しているジャズもの歌謡曲の少なかったのは一寸淋しかった。
和田氏の浪曲、木村氏の肩のコリを直す体操など地獄会には珍らしい種目で特に皆を楽しませてくれた。
一等の越智君は賞品を独りで抱えられず、友人に助けられて自動車を呼び寄せ、車と共にグッドバイ。
田中弥商事から寄贈のナイロン風呂敷に全員お土産を包み、宵の大阪の街に消えて行った。



(上から) 会場風景



(上から)

- 1. 小林明夫君他新入地獄会員
- 2. オテテツナイデ笹島君(S.36)
- 3. 阿波踊の岡部君(S5.33)

異動

栄転

橋田和直(昭三四) 日新火災海上保険大阪支店から十三営業所へ
 久保直人(昭一六) 住友海上火災保険水戸営業所から四日市出張所へ
 根田順治(昭三) 住友海上火災保険大阪支店長から住友海上本社、取締役調査室長に
 増成栄一(昭三三) 北海道拓殖銀行大阪支店から同行東京事務所資金課へ
 水島弘(昭八) 大阪商船大阪支店から神戸支店次長に
 滝沢七郎(昭三) 東洋電機製造(株)経理担当取締役総務部長に
 中田新平(大一一) 日本交通事業社専務から日本交通公社健康保険組合へ
 八家 要(昭七) 神戸銀行常務取締役総務部長兼事務管理部長に
 松岡卯之典(昭一二) 神戸銀行外国部次長からニューヨーク事務所長に
 山中晴雄(昭二) 三井船舶常務取締役から協立汽船取締役へ

事務所移転

砥上朝雄(大一一) 北陸銀行大阪支店次長から大阪支店調査役に
 遊佐憲三(昭七) 名古屋市中村区堀内町三ノ九北海道拓殖銀行名古屋駅前支店長に
 (住所) 名古屋市昭和区明月町二ノ五二
 齊藤雄治(昭一〇) 安田倉庫(株)取締役に
 服部奎吾(昭二三) 東海銀行京都支店から大阪支店得意先課次長に
 下桐修(昭三七) 日魯漁業(株)大阪営業所へ
 (大阪市東区高麗橋五ノ五〇朝日生命ビル内)
 千田遼一(昭三六) 三陽商事(株)大阪事務所へ
 大阪市阿倍野区三丁目二丁目四一
 岩沢正二(昭一〇) 住友銀行業務部長から業務部第一部長に
 桜庭康次(昭七) 中京コカ・コーラボトリング(株)へ
 (名古屋市中区鍋屋上野町字不動一六八八)
 矢野正郎(昭一二) 阪急交通社東京主管営業所長から宝塚女子旅行会館へ
 (東京都港区芝公園二五号地)
 酒井 誠(昭一一) 富士銀行根津支店から八王寺支店長に
 大塚誠四郎(昭一三) 第一銀行京都支店長から神戸支店長に

転宅

菊地 四郎(大七) (富士コカ・コーラボトリング(株)社長)
 横浜市戸塚区平戸町一八番地へ
 電話(二六七一・三四三二)(代表)
 中村平之助(昭一六後) (ワコール販売(株) 大阪支店長)
 大阪市東区南本町二丁目五番地
 電話(七八二六・八〇六一・八一八七)
 高橋一男(昭四) 名古屋市中区南ヶ丘一ノ四三ノ五へ
 三木常資(旧盛五郎) (昭六) 東京都杉並区西田町公園住宅一〇一〇五へ
 山本 博(旧姓田村博) (昭三五) 小樽市稲穂町東一ノ六へ
 平木勇三(昭一二) 東京都品川区平塚七丁目一〇七七
 小林孝平(昭三) 東京都世田谷区世田谷四丁目四一
 二 電話(二二七二二)
 二瓶正男(昭一〇) 仙台市土樋一四八ノ三(転勤)
 岡村三郎(昭一〇) 名古屋市中区千種区山門町一丁目八四ノ二へ
 浜浦英祐(昭四) 名古屋市中区徳川町五丁目四
 岡崎弘(昭一二) 尼崎市塚口町六ノ三七ノ八へ
 根田順治(昭三) 東京都杉並区神明町四六

アジアの経済発展とナショナリズム

一橋大教授 板垣与一氏(昭四)の講演から

アジア経済研究所、札幌商工会議所、北海道新聞社共催のアジア経済セミナーが十月四、五の二日間、札幌商工会議所で開かれた。日本経済の伸長にとって重要なポイントを占めているアジア経済の発展について、アジア経済研究所がまとめた調査結果を発表しようというもので、講師は一橋大教授板垣与一(アジアの経済発展とナショナリズム)経済企画庁総合計画局参事官林雄二郎(アジアの経済開発と日本の協力)世界経済調査会理事長木内信胤(世界貿易とアジア貿易)アジア経済研究所調査研究第二部長岸幸一(インドネシアの政治経済)の四氏。このうち板垣与一氏の講演要旨を紹介する。

戦後四つの期間経る

ここでいうアジアとはインド、パキスタンを含む東南アジアのことだが、まず政治、経済の動きに見られる現象面をひろくと戦後からの五年間は反植民地主義の独立運動が盛んに行なわれたときで、各国が独立し

たのはほぼ一九五〇年。この間を政治的独立運動期間とすると五〇年から五四年までは経済発展に力をそそぎ、このあとふたたび政治的統一運動、さらに六一年からは経済開発の再出発の期間とみることが出来る。この間経済的な開発が進むにつれてインド、ビルマ、インドネシア、セイロンなど、それぞれ形は変わっていても社会主義的な建設、変革に向かっていったのが特徴。政治と経済はもともと切り離せない問題だが、ここでそれがはつきり結びついてくるわけだ。

民族主義はばむもの

さてナショナリズムについてもとても大切なものは国民的政治的な独立、統一だが、これをばむものがアジア諸国にかなり見られるようだ。第一に秩序をささえる権威。植民地時代は土習が植民地権力の間接統治とからみあって社会秩序を保っていたが、独立後それをなかに求めるのが問題。パキスタン憲法やインドネシアの建国五大綱領にみられるように、それを宗教に見いだしたところが多いようだが、第二に言語の問題。インドが、そのいい例で北部と南部はまったく言語系統が違

十三の言語が通用、公文書もかなり分かれている。国語として一本化する事はムリで、パキスタン、セイロンにしてもこれらの事情は同じ。第三に少数民族の問題がある。五年のインドネシアの内部反乱、ことし二月のビルマのクーデターなど、いずれも少数民族から出た不満が表面に現われたものといえよう。

民主的自由の制度を打ち立てることもナショナリズムには欠かせないポイント。議会主義は植民地時代から輸入されたが、中身はエリートだけのもの、戦後、これを再出発させたが、うまくいかなかった。そこにあつたのは大家の貧困と文盲という大きなカベ。インドネシアなど十八歳以下でも結婚していると選挙権を持つことができる—といったぐあいだ。議会制度の受け入れ方も極端だ。

過渡期の軍部政権

また独立を戦いとするための政党内閣が成立後も脱皮せずに、そのまま政権の座にすわり、これが統一を推し進める大きなネックとなった。こうして独立と統一、さらに自由—この二つをはつきり克服することができないまま、五十八年を境にアジアの議

非近代的な経済構造

一方、アジアの経済構造—それはひと口でいえば異質性という語につける。植民地時代はまず支配者として西欧人があり、中間層として華商さらに最下層として土着原住民の労働者、農民があり、これらが三段階層をなしていた。この構造を持って独立したわけだが、西欧人は政治権力の座はしりぞいたものの経済面では支配力をゆるめなかった。というよりもこの「仕組み」を認められたい限り独立できなかったといつたほうが適切。

華商の排除も、たとえある地区で一定営業品目の禁止令を出して国家が協同組合の育成をはかるなど、その勢力を弱めようとしたが、実際面では華商なしに円滑な交流は望めず、最下層もそのままの形で残されてきた。つまり経済構造が近代化されずにいるわけだ。

行き詰まる土地改革

ここで必要とされるのは基幹産業の国有化で、インド、ビルマはまず

代表的 **ザッポロビヤホール**

3階 お座敷 御宴会
 2階 レストラン 成吉思汗焼
 1階 純ドイツ風ビヤホール

文化人のビヤホール
ニュー・ミュンヘン
 梅田阪急前・梅田シネマ裏 TEL 34 3381-36 6545 7122

土地の国有化に目をつけた。とくに南部ビルマは西欧人や華商の不在地主が多く、これらを排除するねらいで国家補償のもとに始められたもの。しかし各国土も土地改革はなかなかうまく進まないのが実情で、思い切った体制改革がなければ従来の

経済構造はなんら発展しないというところに来た。ここに社会主義的経済体制への傾きが見られ、それには強力な政府が必要。フタをあげたら出てきたものは軍部という結果だったが、それも一過程とみられ、植民地主義と戦う国民経済体制—これが

出来ない場合は体制の変革、つまり社会主義への志向。こうしたアジア諸国の動きは現実として私たちもよく見なくてはならないと思う。
(北海道新聞から)

敗軍の将は兵(票)を語らず

越崎宗一(大一一)



先般の参議院選に私は地元から全国区に出馬したT候補を応援した。T候補は自民党公認ではあったが、私は自民党員としての候補よりもむしろ良識派のT候補が参議院議員として最も適任であると信じて推したのである。それにも一つT候補は小樽市から選出した唯一人の参議院議員であったから市民の立場で落してはいけないと思っただからである。しかし参議院選挙で

も全国区は特に難しい。結果は見事に惨敗した。敗軍の将は兵(票)を語らずである。ただ我が小樽代表の参議院議員を一人失ったということは小樽にとって大きいマイナスであることを主張したい。戦前の小樽躍進時代には小樽から必ず貴族院議員を出し、商港小樽の重きを示したものである。最近小樽は伸び悩みとか斜陽とかいわれ、市の主眼者は今後商工都市小樽の発展のために中央に呼びかけている。今の世の中の機構では小樽の市民だけでは逆立ちしてもどう

にもならないのである。小樽の進展は中央政府の国家的政策の一環として織り込まなければますます鈍る、市民は市代表の議員を一人落してもまだ気づかないのであろうか。T候補は政党には属しているが政党内としては潔癖すぎる。良識がありすぎるのである。これが禍して損をしたともいえる。しかし衆議院では政党根性を大いに発揮して論議しても参議院ではさらに一段高い見地から論ぜられねば二院制の意味がない。最近、参議院自体が下院同様に二大政党だけが張り合っって良識派が後退しつつある。これは日本の政治にとって決してよい傾向とは思われない。国民は今回の参議院選をもう少し冷静に反目すべきではあるまいか。
(越崎商店社長)
(小樽新報から)



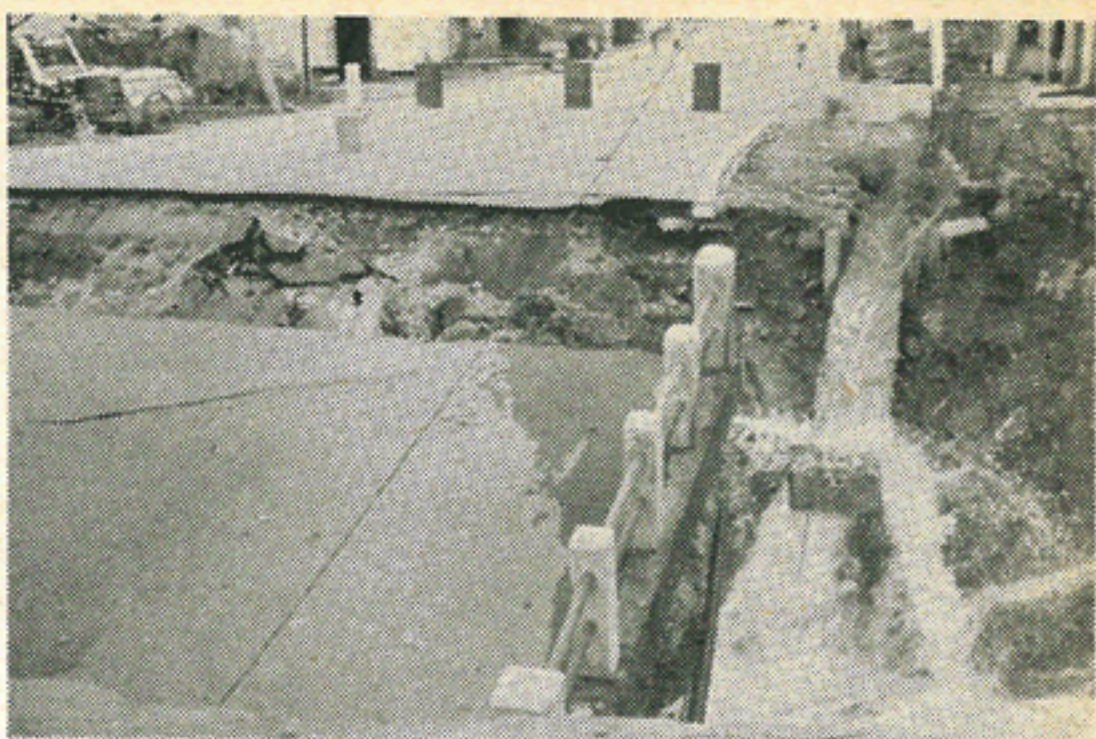
戦の跡を振り返って

参院選の戦塵を洗わんと阪神の間將連中一同に会す。写真は御覽の通り敗軍の将大いに語るの態。
苦米地先生には誠に御氣毒だったが阪神の得票は敢えて恥じなすと自から慰めて怪気焰をあぐ。それにし

ても戦いを通じ阪神緑丘人の尊師の情は涙ぐましいまでに發揮され、これを機縁に益々母校愛の結集と団結の強化を得るならば、先生も必らずや喜んでいただけるものと思う。
(大阪支部)

楽我記

楽我記



楽我記

洗心橋落つるの記

(昭11)

小林啓作

九月三日夜、小樽をおそった九号台風は、小樽市開基以来初めての大災害をもたらし、永久コンクリート橋である洗心橋ほか十数の橋を破壊してしまった。勝納、於古発、色内の三河川はすべて護岸決壊、幾筋もの小流となつて市街に氾濫、その被害総額は二十億円に上るといふ、復旧には三カ年を要するとのことである。

われわれ小樽ッ子はこれまで「小樽という町は火災を除くと全く天災のない町で、雪こそ多いが冬も割り合いに寒くなく、また海に面して夏も比較的涼しく、また海に面して夏も比較的涼しく、また海に面して夏も比較的涼しく」と宣伝これとめていたのである。市内の各河川は天災のない町という基本構想の

の台風情報であったので、町会長という責任上最大の注意を払っていたのであるが、予報ほどのこともないので就床して読書しながら一時間ごとのラジオの台風情報を聞いていた。十一時半ごろ於古発川が危いという町内の情報により、素早くアメリカ進駐軍払い下げのズボンを一着におよび、次男のアノラックに長靴の装備、懐中電灯を手にして洗心橋付近に出勤した。

木が陸続として流れて来てセキを作り、水位は刻々と上り地上すれすれになつて流れているのを見つけた。直ちに町内消防団員の出勤を願ひ作業に当たったが、わずかに二間程度の川ではあるが濁流さかまく物凄い急流となつていて、手のほどこしようがない。そこでガラス工場のカマ場の中に鉄棒を突っ込み真赤に焼けたものの両端をくの字に曲げさせ、これにロープをしばりつけて川中に投げ込み流れをセキ止めている雑木にひっかけて十数人の消防団員でひっぱって来た。今度はトラックを川べりに結びつけて十数回反動をつけてひっぱらせた。遂にセキを破壊させることに成功した。ヤレヤレというので一休みをしたところへ洗心橋が落ちたという報せである。駆け足で現場へ行ってみると、地面から平行に見事に一メートルほど下降している。さっそく警官がやって来て危険箇所にはロープを張って赤電球をつけ通行止の処置をとった。翌朝洗心橋はくずれ落ち完全に破壊されてしまったのである。先日ある会合で、その昔高商の生徒であった大先輩や当時の大先生が、この洗心橋を渡ってよく仲の町南廓へ通ったものだ。

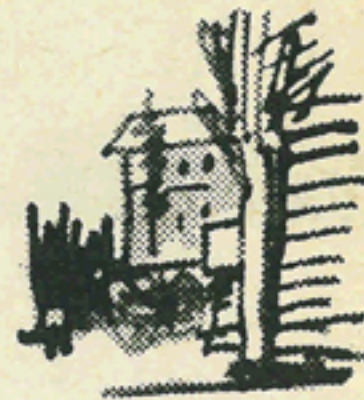
戸井会計事務所
 北海道税理士会長 計理士 戸井正三
 事務所 小樽市稲穂町西3の6 産業会館二階
 TEL ②2128

和田製糖株式会社
 取締役社長 和田久義
 常務取締役 松ヶ野寿夫(昭13年)
 東京都中央区日本橋蛸殻町1-2 TEL ④4005



私の推薦する本

10月18日地獄会案内状のアンケートです



(1) 題名 (2) 著者名 (3) 発行所 (4) 推薦理由

木谷 隆 (S34) 安田火災海上保険
(1)徳川家康(2)山岡荘八(3)講談社(4)大家文学ではありながらも、人生に対する考え方を教えるものがある。

竹中 正親 (S31) 日電家庭電器販売
(1)家庭美術館(2)平凡社

青木 慎吾 (S22) 関西新世乳業
(1)カッパ大将(2)片柳忠男(3)オリオン社出版部(4)面白い中に教訓を含む人物記

藤原 輝雄 (S22) 日電家庭電器販売
(1)話し方成功法(2)江木武彦(3)講談社

栗原 勉 (S14) 長瀬産業
(1)徳川家康(2)山岡荘八(3)講談社(4)附和雷同、ずばりそのもの

河西 辰男 (S14) 松下電器産業
(1)仕事の夢、暮しの夢(2)松下幸之助(3)実業之日本社(4)経営者必読書として乞御高覧

木村 章三 (S13) 松下電器産業
(1)ブックマンの秘訣(2)ピーター・ワード(3)MRAハウス(4)資本主義・反資本主義・共産主義・反共産主義・社会主義・反社会主義)を超越し得る思想革命の解説書

藤井 幸男 (S9) 中津学園
(1)精神薄弱教育講義録(2)辻村泰男(3)日本児童福祉協会(4)日本人口9千万の内300万人の知能の底い子どもに幸福な生活をさせるため。

服部 奎吾 (S23) 東海銀行

(1)野生のエルザ(2)ジョイ・アングムソン藤原英司訳(3)文芸春秋社(4)諸外国のジャーナリストはザックレビューにおいて、「世の中にライオンやヒョウをペットとして飼っている人はかなりいるだろうが、今までいわゆる『野獣と人間』のあいだにこれほど芸術の香り高い作品に仕上げた例はなかった」また「19世紀的動物記録文学の終焉を告げるものであり、同時に20世紀の偉大なる収穫である」と論じています。毎日忙しく日々を送っている間に推理小説の外にこんな本はほかがですか。

中村平之助 (S16) ワコール販売
(1)大阪町人論(2)宮本又二(3)ミネルバ書房(4)土性骨の歴史的考察のため、是非一読を薦めます。

内山 三郎 (S16後) 北海道拓銀
(1)花見酒の経済(2)笠信太郎(3)朝日新聞社刊(4)頭の回転のぶくなってきた私でもそんなに苦勞せずに読めました。

安藤 肇 (S16後) 安藤商会
(1)家庭美術館(2)平凡社

若山永太郎 丸嘉機械K.K.
(1)三国志(2)吉川英治(3)六興書房(?) (4)最近流行になって居る戦術のまたとない良い教科書である。事業経営にたづさわる方や、営業第一線で活躍されて居る方に一読を御薦め

する。
泣いて馬シヨクを切る、
死せる孔明生ける仲達を走らす、
までは知っていても—
人ある所に人なし、人なき所に人あり、とか
波紋の虚、魚游の実、を理解されて居る方は寡ないと思う。
三度愛読したがその都度感銘が深い。

山崎 真治 (S31) 雪印乳業
(1)景気(2)紅林茂夫(3)光文社(4)池田経済政策の失敗を明快に説いているので多に参考になる。

末武 勉 (S37) 日立造船(株)
(1)The Old Man and The Sea
(2)Hemingway (4)まあ読んでみたら…とちがいますか?

滝川 薫夫 (S37) 川崎汽船
(1)海運実務指針(その他海運一般に関する書物) (2)布藤・米田共著(3)海文堂(4)小生の一生を託し、息をさせてもらっている海運界を広く、その重要性を認識していただき、かつその業界における Klin の諸優秀船を先輩に御使用願いたくやっぱり廃案にはなつたが、整備法案にて減資合併の要なく5年以内に立直るといわれたKline, N. Y. K. なるほどという感を深くしていただきたい。

いまを去る四十年、第二寮の食堂で同じ釜の飯をたべて以来の旧友大久保鹿式君が、昨年の七月、尼崎市青少年親善使節団々長として西ドイツの姉妹都市アウクスブルク訪問の好機を利用して試みた欧州視察の所産が、すなわち本書「ヨーロッパを翔る」である。全巻二〇三頁。第一部「ヨーロッパを翔る」と、第二部「ヨーロッパを語る」とから成る。七月十一日の羽田出発に筆をおこして八月九日香港到着に至る一カ月を



越崎宗一著

船簞笥の話

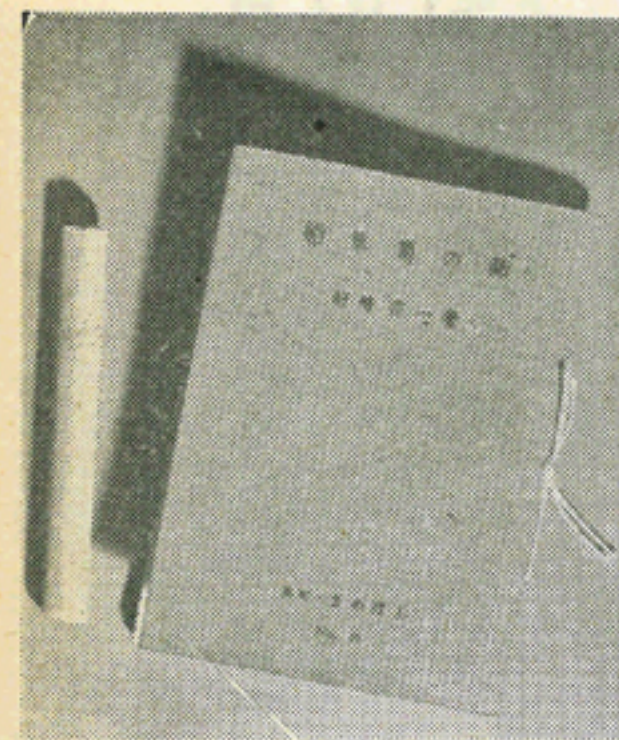
ゑぞ・豆本三十六号
北海道豆本の会 刊行

大正十一年卒、越崎宗一さん(越崎商店社長)から船簞笥の話が贈られた。

同氏の著書はすでに「開拓史前後」「蝦夷屏風」「アイヌ絵誌」「北船考」「銀鱗荘物語」「鯨御殿」「豆アイヌ絵」等続々北海道史に関係ある歴史書を刊行されており、北海道文化奨励賞を受けておられる。

今回の船簞笥の話は豆本で六・五センチ×九センチという写真でも判るように煙草と比較して余り大きさが変わらぬ珍しい著書である。二八〇部の限定本。

船簞笥は徳川中期から明治にかけて大阪―瀬戸内海―下関―北陸―奥羽―北海道間すなわち主として日本海を往来した千石船に用いられた現金、重要証文や貴重品入れの頑丈な

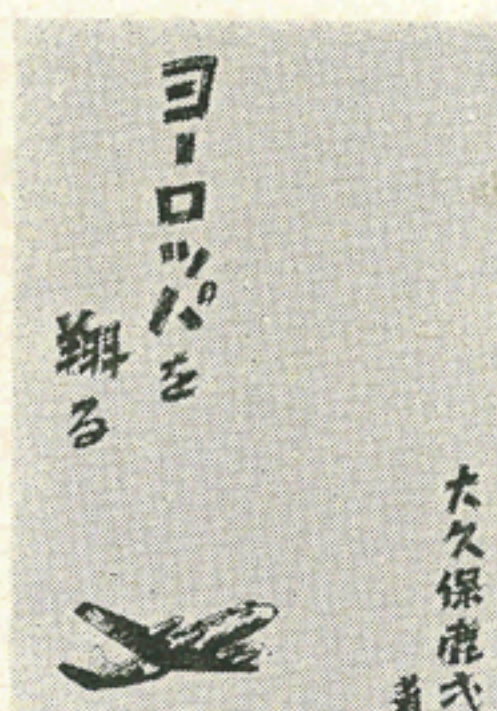


「元北海道新聞社勤務で愛書家、豆本蒐集家佐藤与四郎翁が昭和二十八年に北海道豆本の会をつくり、季刊誌「ゑぞまめほん」を小樽から出版した。

金具張り簞笥である。昨年五月逝去された柳宗悦先生が逝去の直前、単行本「船簞笥(私版本二百冊限定)」を出版されたと著者は船簞笥の話の中に書いておられるが、船簞笥に関する文献が工芸第三十四号をもって唯一のものとなれば、この著書も日本で三番目の稀編本であろう。
内容は千石船、懸帆(かけすずり)半櫃帖箱、厝と船印、千両箱と硯箱などについて十三頁の写真を入れて説明をしておられる。私もまたまた九月に故郷余市に帰って蔵の中にある船簞笥に食指を動かさず、時間がなくて入手の話の切り出せぬ帰阪したところ、この豆本が寄贈されておったので、ますますあの渋柿色の簞笥がほしくなってきました。
ゑぞ豆本について越崎さんにお尋ねしたところ、次のような御返事をいただいたので関心のある方に何かの御参考になることと思ひ御披露いたします。

著者(大久保氏)の誠実と熱情にうたれる

玉井 武(大一二)



佐藤翁は故書痴斎藤昌三とも交遊深く肝胆相照らした間柄、発刊以来正確に年四回づつ出版し、表紙に出雲民芸手漉紙を用いたり、著名版画家の作品を貼込んだり、綴じて自分でコッコツやる始末。現在は札幌へ移っており、今まで武井武雄、斎藤昌三、川上澄生、式場隆三郎、庄司浅水、岩佐東一郎など知名の士も執筆、小生のもは第六号「アイヌ絵」について二度目です。入会は随意です」と。(墓目記)

諸々の印象を中心にした旅行記が第一部。北極経由のエル・フランス・ジュネット機で飛び立ち、英京ロンドンを振り出しに、フランス、ドイツ、スイス、イタリア、ギリシャ歴訪の後、パンコック、ホンコンと翔けまわる第一部(二〇頁)は、オックスフォード・ストリート辺の整然たる交通を眺めては、故国の交通地獄を考え、パリの街角に立つては日本の地上電車がメトロにかわる日を想い、ナポリ行き急行に乗っては車窓からイタリア農業の不振の理由を究明する。ドイツに入るや著者の眼はさらに鋭さを加える。特に青少年対策の領域におよぶや精神の限りを傾倒して惜しまず、虚往実帰の努力の跡には、涙ぐましさを覚える。姉妹都市において使節団のうける数々の経験は、親善訪問に特有の性質を帯びるもので、ヨーロッパの一都市がこのような場合に臨んで歓迎を示す善意と友情と歓待とは、これを日本の同種の場合に比較してみるとき実に興味深い示唆をうける。第二部は著者が尼崎市議会議員としての立場から、特に西ドイツの学校教育、青少年問題、さらにドイツの繁栄等に筆をのびし、故国を透して欧州の実情を見きわめようと努めている。精力的な各地の歴訪、自己の感覚を通しての実態把握、要人の意見を叩き、資料を動員し、日本の現状を正視した所論の進め方。読了して著者の誠実と熱情にうたれることとしばし。恥を国外に曝すアメリッソンを潔しとせぬ緑丘愛士の清鑑を求めてやまない。

皆さんの商品が包装されている

紙函が冷蔵庫に入れられた時に破れてお困りの方は一度お試めし下さい。

防温 防水 タードライナー パッキングケース

株式会社 五洋紙工所

営業次長 山田 光 男 (昭和17年)

本社 大阪市住吉区安立町十丁目二十四番地 TEL 670 0175~9
出張所 東京都江東区深川佐賀町一丁目三〇番地 TEL 640 5757.8401

緑丘余話

(体育功労賞)

文部大臣から表彰を受ける 戸井正三氏(大八)



去る十月六日の体育デーに戸井正三氏は体育功労者として文部大臣から表彰された。毎年都道府県から一名あて表彰されるのであるが今年には戸井氏が選ばれ、平沢亮造、伊坂員維、錦戸善一郎(大八)について四人目である。戸井氏にスポーツ歴をうかがって見た。「私のスポー

表彰状

北海道 戸井正三殿
あなたは長年にわたり体育の普及振興に尽力し他の模範とするに足る功績をあげられました。よってこれを表彰します。
昭和三十七年十月六日
文部大臣 荒木万寿夫

ソ歴は孔子が十有五にして学に志したように十五才でテニスを始めた。爾来、約五年前ゴルフに転向するまで四十五年間一度も休むことなくテニスを続けて来た。十七才にして小樽中学選手、二十才にして小樽高商選手、卒業後も引き続き小樽に在住して仕事以上にテニスに熱中した。全道大会優勝七回、神宮大会団体出場十数回という。

緑丘在学時代の思い出について「対北大戦に本校大将川井・矢内組闘将大泉(現姓竹内)・本間組敗れ、あわや敗北というとき僕は松家氏と組んで北大の大将以下数組を破って味方を敗戦から救い、大西教授から祝辞を受けた記憶がある。次に五十才を過ぎてから全道硬式ダブルス一般選手権を三年連続獲得したことはパートナーの齊藤進君(昭一五)の力にもよるが、これは恐らく全道でも全く異例のことと思う。」と顔を赤らめて語った。
三十年前北海道に体育協会が設立されたとき、その創立委員に選ばれ、爾来三十年間役員をつとめたが、当

時の創立委員で現在残っている同僚の現職役員は同氏一人である。十年前北海道に秋季国民体育大会が開催されたときは湊氏(昭三)現神鋼常務)等とともに地崎代議士に呼びかけ、招待運動の中核となった。話は高潮に達し次のように語る。「長い間のテニスで現在僕の足は

長崎—札幌間縦走サイクリング

緑丘大阪支部 相談 役 畑信太郎氏(大八)の

令息外代三君の壮挙

左が二センチ以上長く、手も手の指も全く左右不均衡である。緑丘庭球部の後輩から湊君(昭三)や末永君(昭五)日産汽船専務)等の俊英を輩出されたことは私としてこんな嬉しいことはない。頑健な身体と相俟ってスポーツに感謝している次第です」



九月八日ひるすぎサイクリングで日本縦走中の大学生が二人大阪曾根崎署に立ちよった。一人は大阪支部相談役畑信太郎氏(大八)の令息外代三君(甲南大学経営学部三年)であった。各地の人や風俗に接しながら屋外広告の実態調査をするのが目的で、長崎—札幌間約三、〇〇〇キロを縦走する計画をたて八月三十日朝、長崎県庁前をスタート。長崎—大阪間約一、〇〇〇キロを一日平均一〇〇キロ以上でつづつ走って来たという。
夜は駅のベンチ寺院、ユースホテルに泊って一人四万円の旅行費。九日あさ、両君ふたたび縦走に発ったが、その翌日大阪支部十日会に集った緑丘人は畑氏

途中でひょっこり二学生

石切の青文堂から贈られた。途中、二学生がひょっこり現れ、畑君と話を交わした。二人は、長崎から大阪まで縦走する計画を立て、途中でひょっこり現れ、畑君と話を交わした。二人は、長崎から大阪まで縦走する計画を立て、途中でひょっこり現れ、畑君と話を交わした。

小樽チャーター会

十周年記念展 緑丘人五名の参加

小樽チャーター会は今年で十周年を迎え、④デパートで八月二十五日から二十九日まで開催された。会員十七名(他に旧会員十一名)で、そのうち緑丘関係者は五名も含まれている。いずれもこの十周年記念展を目ざして日中業務の多忙の中から寸暇をおしんで描いた傑作ばかりであり国松登氏指導のもと会場は

六十数点の出品で埋まった。美術の秋の先陣を承ったこの十周年記念展は連日多数の観客で賑った緑丘関係出品者



寿原九郎氏



高桑市郎氏



越崎清二氏

- 寿原九郎 (大八)
- 高桑市郎 (大八)
- 宮崎信夫 (昭六)
- 越崎清二 (昭一)
- 石川清 (昭一六)

母校卓球選手を迎えて

阪神支部有志集る

母校卓球部はインターカレッジ道予選大会で本大会への出場権を獲得して来阪、関西の雄・立命館大学と対戦、善戦健闘したが惜しくも敗れた。八月三日、阪神支部有志が集って歓迎会を開催、盛大に行なわれた。

自己紹介から始って、会も半ば、現役を前にして諸先輩の懐旧談が後をたないまま、なごやかに閉会した。

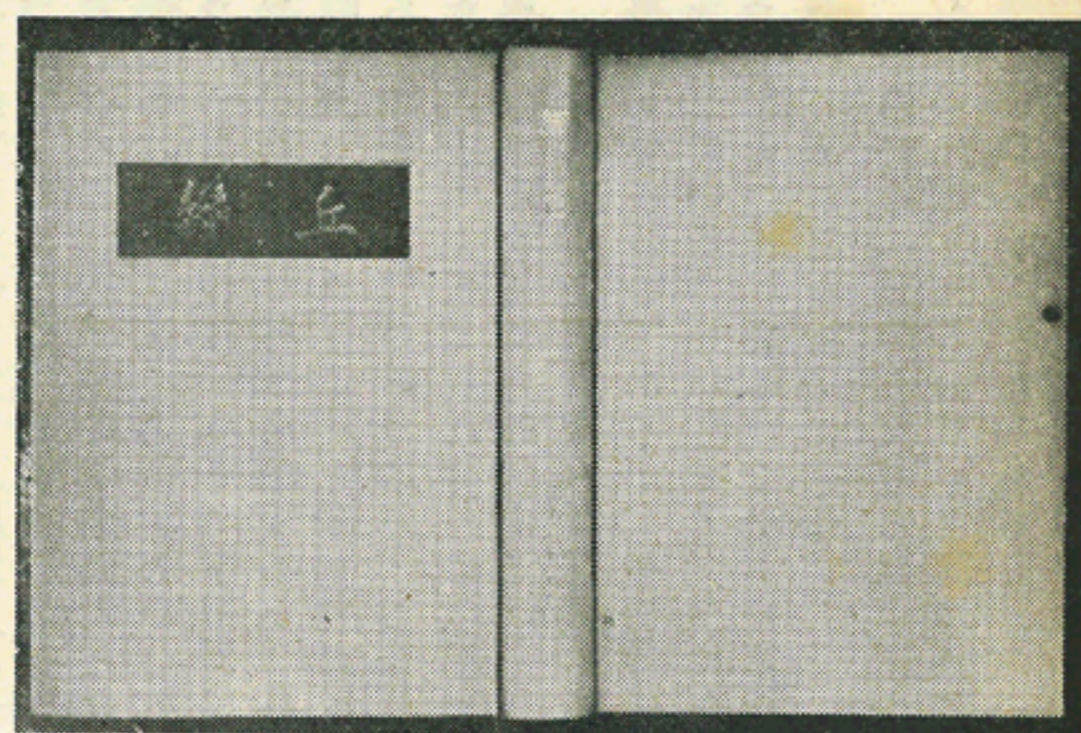
(当日の出席者) 天野大阪支部長、本間神戸幹事長、宮地事務局長、藤目大阪幹事長、若山副幹事長、大久保氏(大八) 畑氏(大八) 太田正男氏(昭一四) 堀尾氏(昭一六後) 田辺靖氏(昭三五)



「緑丘」創刊号—25号 合本

小樽商大附属図書館へ贈る

昭和三十三年五月十日、京阪神支部版として誕生した「緑丘」は第二十八号を発売するに至ったが、この「緑丘」が名実ともに全国版の性格を帯び、全国唯一の同窓会員の連絡機関紙として重要な存在となるにおよび加茂学長もまた小樽商大附属図書館に永久に保存したい希望を「緑丘」編集部へ伝えて来られた。大阪支部に二部あて保存して来たその一部を編集部は合本としてグリーン紙の表紙で表装



し、元教授(現在関西学院商学部教授) 椎名幾三郎先生の「緑丘」の金文字も鮮やかにここに装本完了し、さる八月贈呈した。
「緑丘」愛読者の中には合本希望者もおられます。次の各号はまだ編集部保管してありますので御申込み下さい。一冊十円(郵送料)を御負担下さい。

- 昭和三十三年 二号、六号
 - 昭和三十四年 七号、八号、九号、十号、十一号
 - 昭和三十五年 十五号、十六号、十八号、十九号
 - 昭和三十六年 在庫なし
 - 昭和三十七年 二十五号
- 【特集号】名古屋、神戸、京都、伴先生追悼、大野先生退官記念は全部品切れでございます。

この度「緑丘」のバックナンバーを立派に装訂までして頂いての御寄贈、心にくいばかりの御好意有難く御礼の言葉もなき仕末です。早速図書館におさめました。

学長 加茂儀一

まんびつ五人集

石若丸山三
黒林山田好
政周一正長
五郎三(昭一〇)
夫(昭一二)
(昭一四)

勅任官に頭を刈って 貰ったむかし話

大野純一
(小樽)

戸井正三君からバトン・タッチを受け、ここにペンをとることになったのであるが、その戸井君がこのたび体育振興の功労者として文部省から表彰されることになったことは、誠に嬉しいニュースである。ここに報告して皆さんと慶びをともにする次第である。

さて、私は学生時代を含めて四十年間緑丘生活を続けて来たのであるが、振り返ってみれば私はほんとうに良い人生を送り得た幸福な人間であったと秘かに感謝している。それは、この四十三年間に実に多くの人々から温かい心に恵まれたからである。ここにはその数々の中の一つだけを拾って御披露することにしよう。

昭和二十一年の春のことである。復員後半年とたたない頃である。文部省の局長・田中耕太郎氏から、直ちに上京するよう電報が来た。その

とき私は風邪をひいて寝ており、少々熱もあった。あの終戦後の交通地獄の折でもあったので、室蘭のK商船に頼んで当時日本に貸与されていたアメリカの戦艦船に便乗させてもらった。それは飯川文三さんのお骨折りであった。そのころ東京では旅館らしい旅館はなく、手づるをもとめて泊っても何人かの見知らぬ人との合部屋でなければ、われわれ庶民は寝させてもらえないといった状態であった。私は芝浦に上陸してから、米や副食物をいれたリュック・バックををかついで横浜のI君の宅にたどりついた。そして事情を話して泊めてもらうことにした。I君は高商、一橋時代を通じての親友である。ところが、同君は「局長からの招電ならば、きっと安倍文部大臣に会うことになるだろう。その頭では失礼だから散髪に行つてこい」というのである。――風邪のため私の頭髪も髭もボウボウのびていたのである。――私は彼の言に従つたので、床屋へ出かけたのであったが、あいにく当日は横浜中の床屋の定休日であった。止むなく私は髭だけそって蓬のような頭はそのまゝにして出かける積りで彼の宅へ帰った。ところがI君は「その頭ではひどい、ど

れ僕がやってやろう」といって、私を海の見える二階の縁側につれて行き、風呂敷を首や肩にまきつけて、チヨッキンチヨッキンと缺で髪を切ってくれた。たぶん虎刈りではあつたらうが、彼は「これで良い」といって満足そうにニコニコしていた。ところがである、この散髪の情景をI君の長男の小学校の友達に街路から見ていたのであつた。翌日長男君が学校へ行くと、その友達がまじめな顔で「君のお父さん床屋さんやめたことあるの？」と聞かれたのである。この話が翌日の夕食のときに出たので全家大笑いしたのであつた。このI君は国立専門学校長であり、勅任官であつたのである。私にとつてI君のこの友情は一生忘れられぬ温かい思い出であり、こうした友人を与えてくれた緑丘の生活に感謝せざるを得ないのである。

I君はその後郷里松本で母校の学長をしているのであるが、やや健康を害している。一日も早く元気になる、また昔話に花を咲かせる機会のあることを祈っている。

あのころ「君のお父さんは床屋さんやめたことあるの？」と聞かれて恥しい思いをしたであろうところの長男君は、いまは一流大学の心理学

追想

浅田厚
(旧姓・太田)
(平塚)

小樽を出てから二十五年。その後一度も北海道を訪れる機会に恵まれなかつた私には、当然ながら二十五年前の小樽の町しか頭に浮んで来ない。冬になると音をたてて雪解けの水の流れる小溝に沿ってアカシヤのあ

れた魚の美味がいまだに舌に残っている。君が元気に活躍して居ることを知って本当に嬉しく思う。

町の映画館に「にんじん」が来、「未完成交響楽」が来、「シヨパン」が映写されたのと対照的に、世相漸く険悪になつた昭和十一年頃、岡田春夫君、森川君等とゴタゴタ議論しながらやり憎くなつた緑丘新聞を編集したこと、「緑丘」は御用新聞化したと嘆いた岡田君の当時の顔がテレビで良く見る議場の今の君と全然変らないのも懐しい。深夜一年先輩の本間さんの御宅に十四、五人集つたのも若き日の懐しい思い出である。こんなことで何かと御迷惑をかけた当時の学生主事木部先生が東京に御健在なのは何よりも嬉しいことである。

精勤章

中木幾悠
(旧姓・平三郎)
(帯広)

私は生れつき音痴である。泣き方も音痴であつたらしい。音痴の悲哀は固苦しい挨拶が終りきつて一献二献と盃を重ねる頃から始まる司会者が座興として歌舞音曲をなさしめるからである。指名されはすまいかと思つて気が気でなく数少ない中よりどれをやるかと思ふ初めると酒の味も遙かに遠去かつて締めつけられるような困惑の状態に陥つて終る。従つて余興するのは誠に嫌ではあるがといて他人様のやられる座興に対して面白く熱心に見かつ聞くから妙であり、また虫のよい話でもある。

さて、先日整理をしていたら漆塗りの小箱が出て来た、蓋を開けると金メタルが入っている。表には鳳の模様で精勤の二字があり裏には小樽高商の校章と小さく昭和十一年K18と刻んである。

私は在学当時は目立たない存在であつたが、私は私なりに結構学生生活を楽しんで来た。しかしこれといった記憶が残っていないのはどうしてなことだろう。卒業後現役兵として北支の第一線に転戦し、終戦を迎えたのだがその間邯鄲、大名、汲、濟南、新郷等の警備に任じ八年間の空白が記憶をも空白にしてしまつたのであろうか。

だがここに精勤章がある。精勤章を買つたところを見ると、私は自宅から通学していたのだから、雨の日

つた地獄坂、正門前にあつた郵便ポストの傍に住んでいた老人夫婦も今はもうこの世に居ないことだろう。校庭の雪も図書館の周りに煤けた姿を一部残すだけで、漸く萌え出した雑草の目にしみ入るような青さが今なお鮮明に目に浮んで来る。ポプラの木の下に佇んで見た小樽の海は櫛の歯のように立ち並んだ家々の向うに、冬の名残りを濃紺の色に止めていやに重々しく目に映つたものである。

校庭の八重桜を背にした北斗寮のテニスコートで、石川君が水戸弁丸出して「オイ・オメエ」と元気に球を追ひ、寺田・今津の諸君もこの常連だつたように思う。

遙々暖い静岡の国から津軽の海を渡つた私には、白一色の冬からやがて春から夏に移る頃、学園を包む山並の落葉松が青々と色付いて、天狗山から下りて来る深い霧の中に郭公の夏を知らせるあの孤高なき声が忘れ難い。この頃がほんとに緑ヶ丘という名前に相応しい頃だつた。

いわゆるパーバリー姿の緑丘生が三々五五と打ち連れていたのも、この季節の夜霧の中が一番多かったように思う。雨降つても降らなくてもパーバリーを着込んだのは、当時の緑丘生の一寸したオシヤレだつたのかも知れない。

学校も終りに近付いた三年の夏だつたと思うが、滝川の岩本君の家に御世話になつて、あの時頂いた岩魚というのか、兎に角鮎に似て溪流にと

ともあれ小樽から福岡にとんで、住友に入社して二十余年、私の頭にある小樽は現実には随分変わったことだらうと思う。まだまだ社会に出て若輩の徒であるが、小樽生活三年の間に培かれた青春の血は驚く程まだ胸の中に燃えたとつている。

私には小樽は暗いという意味ではないが、何か重々しく、何かを考えさせるような土地だつたように思う。緑丘のアカデミックな伝統もこつた風土の中に生れ、またそれは緑丘生の「誠実さ」にも通じるものではないかと考える。

今回は富士銀行山田正三君に御願いし度い。

(昭一二、住友機械工業株参与、日

次は芸達者の丸山一郎君にパトンをお渡し致します。

(昭一 北海道拓殖鉄道)

浜林先生のこと

佐藤 信雄

(滝川)

も風の日も一日も休まずに三ヶ年間地獄坂を下したことになる。これについて思い出すのは、朴菌の下駄をひっかけた時間かつかつに急ぎ足にて坂を登って行くと前方を木部先生が汗をかかされるのか帽子を稍あみだに被りゆっくりゆっくり登って行かれる。而かも時々立止って坂下の方を透して朴菌族の有無を確かめようとなさる。始業時間は切迫するし、先生を追い越さねば、鈴木木部のグッチやんに欠席とつけられるし切羽詰って迂回して土手を攀登り辛じて教室に滑り込んだものだ。汗はたらたらノートの上に落ちるし大変だった。このようにして地獄坂を往復したことが、歩兵として北支の山野を駆け廻らした健脚の素地を作るに役立ったような気がする。

今では精勤賞の制度があるや否やは分らぬが、唯休まずに通学していたのでは大した効果がないようにも思われる。併しながら私としては、余り人のやらなかったことを在学中一つだけやったということ、子供達に一応一日も休まずに通学せよとの教訓の資料にするつもりだったが精勤すなわち成績がよいわけでもないし、また皆勤を強要する必要もないので今では唯々自分の胸に秘めて、まあまあ兎にも角にも地獄坂を登り続けたものだといひ追憶に耽る許りである。高商が経専となり大学と交るにつれて校章も変わったが、あの高商時代の懐しい校章は金メダルと共に、今後も夢うるわしい緑ヶ丘の幻影をかきたててくれることである。

浜林先生の御推せん当時代の滝川中学校に赴任してきたのが、卒業した一九二三年の春、それからずっと今まで同じ土地で英語を教えている教員です。来年は還暦という年齢になりましたから教壇生活も終着駅の一つ手前位のところですよ。

先生は私のやり方を知ると、ある時「そんな風にしてシエークスピアを読んで面白いかね。そんなことをしていたらシエークスピアが好きにはなれないよ。」と言われました。そして正に先生の言われた通り私はい

まだにシエークスピアが好きにはなれないでいます。その後何十年もたつてシエークスピアを讀もうと本をとり上げたこともありますが、つい私の手はシエークスピアの方にのびる始末でその度に今は亡き先生の言葉を思い出し、下振のわが身を恥じるのです。

それから次は終戦後私が一番最後に先生にお目にかかった時であったかも知れません。先生は病床に臥しておられました。色々なお話を伺ったのですが、次のような意味の言葉があったのを記憶しております。「詩というものは意味を理解することもさることながら、詩の調子が分らないと駄目だね。調子が分れば意味は少々分らなくても面白く読めるんだね。ゴールドン、トレジャーをばくは外遊中も始終持つて歩いて繰り返し読んだが、実に面白かったね。併しあの本に注をつけるなどと言われたら面白味はなくなってしまうだろうね」教科書の中に英詩が出てくると、私はいつも先生のこの話を思い出します。そして今以て英詩の面白味がよく分らないことを残念に思います。どうしたら詩の調子が分るようになるのだろうか——と考えます。

先生はこんなことも言われました。「この頃は新しい本も手に入らないので、仕方がないから昔讀んだものをまた讀んでみるんだが、昔分らなかつたところは今讀んでも大抵分らんのだよ。人間で進歩しないもんだね。」それを聞いて私は、浜林先生です

古い「新講堂」

沢村 重一

(札幌)

この頃若い緑丘人に会うと、よく「先輩は、よい時代に学生生活を過ごされて、幸せですね」といわれる。私はいつもこの言葉に直ちに無条件で肯定する。決してノスタルジアではなく、真底良い時代であったと思っており、緑丘の存在に感謝の思いを新たにす。

事実、我々は緑丘が実り多き伝統の華を咲かせた時代に、勞せずしてその果実を頂戴していたことになつて、世の中は、その事のは非は別としても、支那事変のさ中であつて、経済は好況の波に乗り、社会は人材を求めている、といわれていた。日本男子たるもの何やらずんば非ずというふうな気になるのも当然であつた。街では、高商生を特別に遇している如き傾向がなくなつた。相当なヤンチャが逆に好感をもつて迎えられる風のことゝも屢々あつた。春夏の休み、夏山、冬山の途次宿でも車中でも、相当自由に振舞つていたつもりだが、多くの場合温かい笑顔の中で過すことが出来たように記憶している。また街の会合に出ると当市における「最高学府云々」とおだてられてくすぐつたい気分がさせられた。このように扱われて来ると苦さんや岩ちゃんの大喝に思わずとも、我等ヤンチャ坊主も「青年紳士」らしく振舞わざるを得なかつた次第である。

念を禁じ得ないものである。急げ者の私をして、真底とても抵抗出来ないと感じせしめられたのが手塚先生である。当時、日独の協定が出来、日本は枢軸国といひ、大いにドイツづいていた。「アルバイトデイーンスト」という言葉が始めて使われ、学生は一週間寮に併詰にされて、坂を下るのを許されなかつた。そして、日中花園公園の坂あたりの道路造りという訳で、土方のまねごとをさせられた。この時の私共の区隊長(これも当時の軍の教育隊の称呼をまねたもの)が手塚先生であつた。日中あまり頑丈でない先生が、我々と一緒に大なる石を動かしたりして、真剣に汗を流しておられた。夕方、我々が風呂で一汗流してから、手塚区隊長は何をしてゐるならん、と思つて部屋を覗くと驚いた。マノイレスコトとか何とかの原書を繙いて悠々たるものである。これを見て我々は単純に参つてしまつた。その日から一段と先生に対する畏敬の念を深めたことはいう迄もない。

手塚先生と共にビクセルやワルラス、パレートやシユンペーターの名が出、メンガー、ベーンバルク、ハイエーク等の名が相次いで、飛び出すに及んで、二十年の昔に返つたような錯覚に陥る。高慢なる内容に至つては、からつきし忘却の彼方に押しやつて、ひたすら、声色が横行する。南先生の顔と共に「マルサス先生」が出て来る。口辺に泡沫をたたえられると、愈々名調子である。室賢先生の「ビュヒヤ」も、その盛んな論説と唾液の撒布も含めて特徴あるものであり、緑丘人の脳裡から永遠に消えないものである。

緑丘誌を手にし、全国至るところで活躍される先輩始め多くの緑丘人の消息を知るにつけても、一入その感を深くするのであるが、私は学校の良きについて二つの意義を見出し

我々が、直接指導を受けた先生方は、あるいは物故され、あるいはうつられて、母校におられる先生方は数少ないなられた。然しその総ての先生に対し、今日なお感謝と畏敬の

私の会社に、比較的近い卒業年次の同窓生がいる。たまたまわが陋屋を訪ねて来て酒を汲み交すことがあ

随分と勉強家もいたし、聞くところによると、講義は専ら代表を立てておいて、自らはもっぱらゴイングマイウエーの猛者もいたことであ

た。思いがけなかつた映画フィルムを製作する会社に身を置く羽目に相

き先生から直接教えを受けることが出来たことである。活字を通じてのものは、全人格を投じた講義とは、決して同じものでない事。特にゼミナール等を通じ、先生の人格と誇りとを肌と感じた、若き日の感激とそ

まんびつ五人集

のであることを確信している。更に他の一つは、同窓の交りである。同窓は年輪と共に育って行く、自分一人は、自分丈のせまい社会で小さく根を張って行く、然し、そのさやかな努力とは別に、同窓の年輪は、各々そのある場所においてどんでん育って行く。我々が同窓の交りにおいて受ける社会的恩恵や、喜びは、測り知れない大ききである。一度反省して見給え、自分の何所にこのような友情と、恩恵を受け得る資格があるのかと。

然り、その故にこそ、私達は、自らの生活を誠実に生き抜かなくてはならないのではないだろうか。たとえ、他の人々に直接お役に立つことがなくとも、自分名を旧友が想出す時に恥を思わなくとも済むだけの生き方を。

札幌では、古くから在札の江木や久保、佐々木や岡島の諸兄とよく行き来する、道内昭和十四年卒（渋柿会）は他の緑丘同期会と同じによくまとまっています。炭坑の労務部長で活躍している森松や、旭川生え抜きで、成功している内藤等からも、早く同期会を開けと声をかけて来る。

昨午かに札幌に來た野村証券の石黒や、住友の相場、農中の河西等が大いに活躍していることも、この誌上をかりてお伝えしたい。京阪の同窓諸兄には、出る度にお世話になり感謝の外ありません。訪ねる都度、同期諸兄の消息を聞けるのも楽しみの一つである。しみじみ「緑丘」は

よいと思う。曼目先輩には加茂学長が、いみじくも誌上に語っておられた。「呉々も体をおいとい下さい」勝手な言い分ですが、かけがえのない先輩ですから、(文中諸先生を略称したり、同期諸

兄の敬称を略したことについて、お許しを乞う) 次回の候補に野村証券札幌支店長の石黒政夫氏を煩わし度いもので(昭一四、北海道放送映画総務部長)

まんびつ執筆者

- (大三) 高橋徹男
- (大八) 戸井正三
- (大九) 菅谷重平
- (大一一) 田中弥三郎、塩谷精一郎、古岡周蔵、大久保鹿式、大井繁正、渡辺一夫、小河成美、池田(大一一) ぼろにが太郎、谷本朋次、片岡亮一、小海武鉄郎、松原治郎、森下弘、北村良吉、桐田鉄郎
- (大一一) 増田常次郎
- (昭二) 黒羽秀夫、牧野吉男
- (昭三) 佐竹繁寿、樋山三郎
- (昭四) 小山健児、湊静男、高橋一男、玉井英夫、宇山慶三
- (昭五) 池田啓助、井藤久也、吉川友記、北村太治郎、横井七之助
- (昭六)
- (昭七)
- (昭八) 土岐秀雄、本間広松、小池三郎、高見美雄、会津幸雄
- (昭一〇) 篠崎万治郎、若月雅司、北村匡弘
- (昭一一) 浅野潔、土屋龍郎、木下春男、三崎嘉郎、島崎保信、中尾弘、小田島一雄、田中三郎、中道良徳、川原俊一、松井要吉、進藤彰、越崎清二
- (昭一二) 内藤好生、皆川莊一、西谷作太郎、矢野正郎、宮内美雄、木内武之助、牧田恒雄、本間英作、森川正明、石川孝一
- (昭一三) 江川裕一郎、若山永太郎、木村章三、山本俊雄、松ヶ野寿夫、丸山弥、平木勇三、金垣英雄
- (昭一四) 伊原利勝、大沼誠治、北村幸、谷英純、沼田博、太田正勝、菅原雄、河西辰男
- (昭一六) 柏原正美(昭一六後) 中村平之助、小林芳美、松村克巳
- (昭一七) 梶谷真一、長尾昌弘、桑野泰次郎、阿部敬作、越智直行、山田光男
- (昭二三) 牧口富伍、リトル・ラン ドナア、服部奎吾
- (昭二五) 北野巧
- (昭二九) 古内一成
- (昭三〇) 石津洋三
- (昭三一) 小田島和夫
- (昭三五) 佐藤良雄、本前勝支朗、長津行高、猪浦淳一
- (昭三六) 神田隆志

この「緑丘」に本部会報を吸収せよ

曼目(ひきめ)編集長 小樽に現わる

突然「緑丘」編集長曼目英三氏小樽に現われたとの情報が入るや木曾教授は加茂学長、大野前学長、中島事務局長と連絡をとり、小樽支部幹部にも呼び掛けて慰労会を開催の議がまとまり、九月十一日午後六時、金栄支部長から曼目編集長に永年母校同窓会のため献身的努力を続けられた功績をたたえ、好きだからやっつてんだという傍観的態度はいかんとことである我々も出来るだけの協力を出しますから、今後この努力を続けられん事を祈る挨拶をされる。続いて大野前学長から今般「緑丘」の貴重な紙面に私の特集号をさしていただき、美事な編集振りに驚いておられます。一生の記念品として一部を子供に贈り、一部を我家の家宝として保存いたしますと感激の御

挨拶があった。

曼目編集長から答辞があり、計らずもこのような観迎会を開いていたこと唯々感激しております。今後も身体が続く限り発行を続けて行きます。五年間続けて来ましたが色々な苦勞がありました。広告集め、封筒入れ集金等その中で一番不愉快なのはお金を送って来てもう不用だという方で、お札で顔をはられた様なブジョクを受け、何回となく中止してやろうかと決心しました。然しまだ沢山の方々が喜んで読んで下さるのだからと氣をとり直して続けて来ましたと涙ぐんで苦心談を披露して下さった。

編集長らしく直ちに小樽支部特集号を一月に出版する動議を出す、主たる項目をメモし、この項目を中心として原稿作成にかかっていた度いと分担事項を示す。

越崎宗一氏は曼目君には文化勲章を出さねばならぬと冗談をとばす。加茂学長は曼目君は資金面でも苦勞を続けて来ておるが、何んとか援助して続刊させてほしいといわれると金栄支部長案を示す。本部会報原稿を曼目君にお願いして「緑丘」に合併編集していただき夫れを本部は買上げて緑丘会費(本部の会費)納入

会員にのみ発送したならば、一部の単価も安くなるうし喜んで楽しい緑務丘会報が見られるだろう。中島事務局長が七千部発送に毎回七万円の郵送費を出して、赤字すれすれで苦勞をされているのであれば、この方

法はどうであろう。曼目君にはお気の毒だが編集をお願いし度い。失礼なことだが曼目君の給料をそのまま本部が出すから、小樽へ来てくれませんかといつても無理でしょうかと笑い出す。小樽でこの会報を出すにはやはり人の問題が先決でせう。そうなればやはりこの案がよいと思えますねと続刊の名案が出た。本部でこの案が採用され、曼目君が承知して下さればこれですべてがO・Kだと感じたのは筆者ばかりではなかった様だ。実現を期待する。

一月号は小樽支部特集号 曼目編集長九月十一日来樽し、一月号は小樽支部特集号を発刊することを小樽支部長金栄西吉氏、戸井正三氏、越崎宗一氏らと打合せして帰阪しました。 小樽支部の皆さまには原稿依頼状を差し上げ度いと存じますが振って御執筆下さいませよう御願ひします。締切日については近く決定いたします。すでに名古屋・神戸・京都特集号が発刊されておりますが、小樽支部ともなれば全国緑丘人の注視の的ですから立派なものを作り度いものです。御協力のほど願ひ上げます。(小樽支部特集号世話人 越崎清二)

(上) 御前会議曼目参謀長(右から3人目)の状況報告 (下) 頭だけ大正組買録充分の編集長左から2人目



伴先生の書翰集発刊近し

「御申込み」と「あなたの思い出」を

すぐ書いて御送り下さい



伴先生のハガキと
写真が続々到着

編集取材のため九月中旬小樽を訪
問した時、小林啓作君(昭一)が
田辺新一氏(小樽市富岡町二ノ三
九)より書翰三通(昭二・二六・
二八)とハガキ(昭二四・三一)二
五枚、金吉忠吉氏よりハガキ(昭二
九)一枚を借りて下さった。
さらに堂城不二人氏が東京小貫武
氏から写真とハガキ(昭二五・三
一)十八枚を借りて届けて下さつ
た。越崎清二氏から原稿をいたさ
く。

写真は
大竹正雄氏よりスキーと伴さん
(二枚) 古関周蔵氏より墨書(一
枚) 野又貞夫氏より墨書(一枚)
大久保鹿式氏より昭二四、大久保
邸にて(四枚) 越崎清二氏より昭
二九、田園調布邸(一枚) 昭三一
母校四十五周年当時(一枚) 小貫
武氏より昭二九、金婚祝賀会(六
枚) 葬儀関係(三枚) 青田滝蔵氏
より喜寿の祝(二枚) 計二十一枚
ハガキは戦前のものが悉く写真
は伴先生の若き日のものを要望す
次第である。

十月二十日現在

伴先生書翰集申込追加(部数)

- 渡辺祥吉(堺) 一、岡本元次(東
京) 一、熊沢正義(東京) 一、松
本周三(大阪) 一、堀川源作(東
京) 一、木村慶七(札幌) 一、木
曾榮作(小樽) 一、小野寺佐(会
津) 一、青田滝蔵(東京) 三、宮
地邦介(大阪) 追加二、大庭定男
(東京) 一、西野嘉一郎(東京)
一、菅孝夫(帯広) 一、服部奎吾
(大阪) 一、森松定男(札幌) 一

小計 一五名 一八冊
合計 八〇名一〇三冊
あなたはまだ「伴先生の
思い出」を書いていません
今まで御執筆下さいました方々の
御芳名を掲載します。
(十月二十日現在)
早く書いていただきませんか、パ
スに乗り遅れます。原稿は十二月で
締切ります

伴先生の思い出と執筆者

- 父の思い出 伴 素彦
- 伴さんの思い出 苦米地英俊
- 伴先生の思い出 椎名幾三郎
- 奥さん思い出の伴さん 草野 義一
- 伴教授の大きな黒皮靴 (故) 伊東小四郎
- 馬鹿になりきれ 菅谷 重平
- 伴先生と柿 天野 雅司
- 伴先生の思い出 小貫 武
- 伴先生とハガキ 菅目 英三
- 伴さん 古関 周蔵
- 伴先生に做って下さい 黒羽 秀夫
- 以上「緑丘」 特集執筆
- (追加)
伴先生と私 青田 滝蔵
- 伴さんの思い出 相沢 正美
- 伴先生の書簡と机 大野 純一
- 伴先生としての伴先生 大平 善梧
- 伴先生の二人の学友 越崎 虎宗
- 出版物 板永 政輔
- 出版物 富永 政輔
- 田中 実
- 原稿は年内で締切ります

耐酸・耐蝕・鉛加工・鉛工事一般

日本滲鉛工業株式会社

社長 大久保 鹿 式 (大正12年卒)

大阪市東淀川区木川西ノ町六丁目五
電話 大阪 〇 5 6 1 〇 4 9 2

伴先生のハガキから

木村 慶 七
(大一一)

昭和三十一年七月二十二日附
伴先生より木村慶七宛

拝啓 先日ハ山形屋ニ御集り下サレ
引続キ種々御配慮ヲ被リ難有存シマ
ス。乍延引厚ク御礼ヲ申上マス。
貴君ニハ実ニ久振ニ御面会ヲ得テ、
大ニ懐シク存シマシタ。天地ハ日々
ニ変化シマス。殊ニ戦争ヲ経テ社会
ハ一変シマシタガ、イツモ昔ハナツ
カシイノデスガ知人ニ対面スルト、
一時ニ様々ノ事ヲ思ヒ出サレマス。
頭ハ稍白ク既ニ停年ヲ過ギラレタ
デスガ、元氣ハ旧時ヲ凌グ有様、只
今何職ヲヤラレルカ存シマセンガ、
頗ル結構デス。小生モ割合ニ元氣ノ
上、今度ノ旅行ニ依リテ若返ルツモ
リデシタガ、帰京シテミルト暑サガ
加ハリ一枚ノ礼状ヲ認メルコトモ大
儀ニナリ、今日ニ及ビマシタ。御許
シ下サイ。七月末ハ長雨ノ為メ土地
ノ湿気多ク、暑氣一層強イノデス。
八月ニハ涼氣ガ僅シマスノデ、ウン
ト奮発シ回復シタイト希ヒ居リマ
ス。

七月二十二日大田区田園調布二ノ
四〇 伴 房次郎 頓首

附記 木村慶七
此の御端書は、先生が小樽迄御出

の折に札幌在住の先輩各位が札幌
へ御招きして山形屋での集会の後帰
京されて頂戴したものでした。私が
何かの差支へで一時間遅れて会
場の日本間へ入って行きますと、最
早配膳が済み宴が始りかけておりま
した。室の入口で栗原大先輩に「先
づ先生に御挨拶を」とうながされて
、正面にウツクマル様に座っておら
れた先生の前に怖る怖る進み出で「
大正十一年卒の木村で御座います、
お久しう御座いました」と申し上げ
ると途端に先生から「木村慶七君だ
たネ。」と御声をかけられて、その御
記憶力の旺盛なのに驚かされた次第
でした。

伴先生のハガキから

武内 武 一
(昭二)

二十八年十二月五日

武内 武 一 宛

拝復 写真を難有、御礼申上ます。
大層良く取れました。全員十二人改
めて見直すと面影がよくわかり誠に
良好の記念になります。
御馳走も前に並び和楽の光景、思い
出されます。元来小生は京都附近の
農家に生れ幼にして父を亡ひ母の手
で育ちましたから社会や社交とは全
く無縁で中学校の存在をも知らず、
偶然之を知りて入学して後は良き友
達の誘掖で学業を卒へしましたが、社
会生活に付ては全然無智識で危険千
万です幸に先輩同僚の引立や援助で
身の一分を尽し得たに過ぎません。
僅に自省して自得したこと有りても
それも先輩の御蔭です。資性が柔弱
で卑怯な上に社会を知らぬ為め他の
人の如く得意の鼻をうごかしたり、
声を放ちて毫語する機会など一度も
有りません、何となく常に淋しくて

人なつかしく、世の中の隔てなく自
由に朗かに心を交すことの出来るの
を待ち望んで居たので有ります。我
愚を守るといふ語があります。私は
此念願と共に我愚を悟り、我愚を守
りましたが、今観れば私の此念願
に到る処で常に叶へられ私の周囲は常
に快活で明朗な人達のみで有りました。

実に此身の仕合せで有ります。昭
和十四年末上京後戦争中の苦勞をし
ましたが十日会、クラス会等にて緑
丘の人々と親しく語り合ひ有為の人
達の活動振りを見ることを得て常に
心強く如何に慰められたことでしょ
う。時には家庭に迄迎えられ親類一
門の家に在る心地して喜ぶのも老後
至大の楽事です。御礼申上ます。
健康に恵まれて勢立つ若人達の前途
を祝福します。
春の若木の緑も鮮かなるを聯想し小
樽生活の昔をしのびつつ。

“小樽緑丘会”誕生

会長に讃岐梅二氏(大一二)

緑丘会小樽支部は現在市内に約九〇名の支部会員を擁しているが余りにも多数で一堂に会する会場もなく、また支部会費徴収の件についても相当な難事業であり、且つ、その運営には通信費、印刷費等が大変な額に達する割合に、その効果は期待できないという状態で、この数年運営難に陥入っていた。当初支部が発足したときは、むしろ十日会を発展的に解消して支部への拡大をというのが主眼であったようであるが、実際は上述のような苦境に立ち到ったというのが事実である。

かくてはならじと戸井副支部長を始めとし同業の士が、この頹勢挽回について数度に渉る会合を開いて検討の結果今回「小樽緑丘会」が生れる事になった。「小樽緑丘会」は十日会を一廻り大きくした組織にし少く共三〇〇名程度の会員を獲得し、会費を年額五〇〇円と定め、緑丘会員で小樽市またはその近郊に居住、勤務する方々で任意加入制によって構成しようというのである。勿論母校の後援と緑丘会各支部との連絡協調、会員の親睦を図るのが目的である事は論をまたないわけであるが、少くとも年三回乃至四回は会合を開いて、その親密度を深めようという意図である。

去る十月二十七日母校教官古瀬、伊藤、浜林三先生の博士号授与祝賀会に先立ち北海ホテルにおいて創立総会を開催し発起人代表として戸井正三氏から経過の報告があり、会則審議、役員選任等が議せられた結果会則は原案を承認、役員は会長に讃岐梅二氏(大一二)、副会長には緑丘会員であると同時に母校の教官である石河英夫氏(昭七)を大学側から選出して母校との連絡を密にするこゝとなり、卒業生としての緑丘会員側からは小林啓作氏(昭一一)更に幹事長として新谷篤太郎氏(昭一五)を選出し、満場一致を以て承認した。

讃岐会長は役員を代表して力強い挨拶を述べ、こゝに小樽緑丘会は新生した。今後各期より幹事を選出、常任幹事、会計幹事、監事、顧問および相談役を決定して本会の一大躍進を図らんと会長以下決意を新たに年内に陣容を固める計画を建て、いる。

会長、副会長、幹事長共に多忙な業務に携っている方々ばかりであるが、どうか我々の期待に添うような小樽緑丘会に成長するよう念願して已まない。

(昭一一 本間誠一記)

在阪第四寮会

開催 6. 2 8

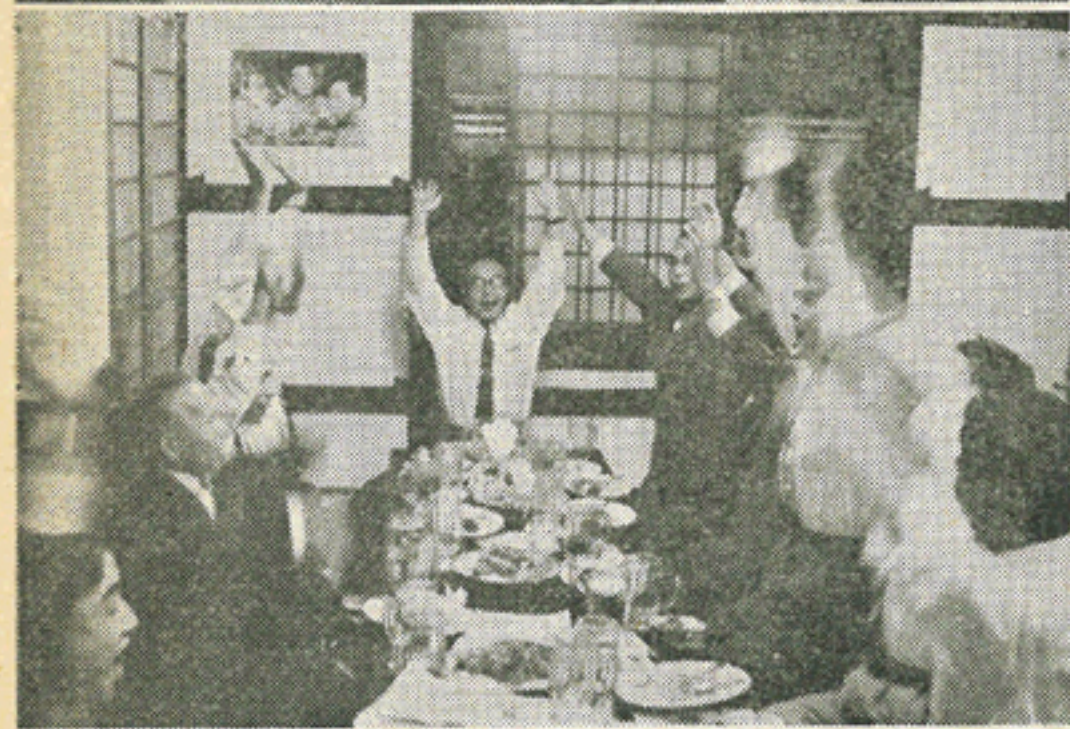
六月二十八日、かねてよりの念願であった在阪第四寮出身者の会が開催された。約半世紀におよぶ伝統をもった第四寮、古い形は消え、その伝統は新しい装いをもった智明寮にうつがれることになった。

しかし、その姿はいつまでも、第四寮出身者の感激的な青年時代の象徴としてわれわれの中に生きつづける。第四寮葬送コンパと銘打ったこの会は、第四寮の魂と伝統を大阪において復活させることだった。

飲み、語り、歌ううちに大きな感動が参会者を一体として、惜別の情たち難く、二次会、三次会と行動を共にすることになってしまった。また、心をこめた色紙二枚を母校智明寮に贈った。東京に微を送り、東京四寮会の発足をもうながした。

出席者は、宮地邦介(大一一)、天野雅司(大一一)、越智易延(昭三)、永井正一(昭九)、北村匡弘(昭一〇)、山家利典(昭一三)、和田益太郎(昭一三)、青木慎吾(昭二二)、角响(昭三四)、本田嘉一(昭三五)。

なお墓目幹事長特別に参加をいただいた。



緑丘会 富山県支部総会

六月十六日(土曜日)午後二時から高岡の北陸文化会館七階で開いた。最近欧米から帰朝された会員河合邦吉氏(北陸銀行専務)の視察談を拝聴かたがた会務報告のためである。

昨春、母校の久木教授を迎えて富山ホテルで集合して以来久々の顔合わせであったので、別記の通り十八名が参集し盛会であった。

定刻、藤瀬支部長が開会の挨拶を述べ、神沢常任幹事から会務を報告したのち河合氏の外遊談に移り、同氏があちらで撮ってこられた数百枚のスライドを映写して説明されたので、われわれは座りながら世界を一周する感があった。あとはビールで交歓、感興つきるところを知らなかったが、薄暮飯野氏の発声で緑丘会の万才を唱和して散会した。

(神沢記)

- 出席会員氏名(カッコ内は卒業年次)
- 富山地区 藤瀬幸造(大九) 安村靖彦(大一一) 神沢重治(大一一)
 - 野界作成(大一一) 上勢清次(昭四) 楠木茂(昭一六) 高原一雄(昭一〇) 上野誠司(昭二五)
 - 高岡地区 飯野直義(大一一〇) 古戸喜策(大一一〇) 宮林新三郎(大一一〇) 和田佐一郎(大一一) 八島勝巳(大一一四) 発田平兵衛(大一一四) 浜井靖一(昭一一) 大坪皓(昭三四)
- 以上 計 一八名

「カラチ便り」

東京銀行カラチ支店(昭一八)

亀 井 尚 一

大変御無沙汰申し上げております。

毎々緑丘を御惠贈賜わり恐縮に存じます。毎回懐しく嬉しく拝見させていたただいております。ことに今回の大野さんの特集号は、私大野さんのゼミで、また銀行へ入ってからもういる大野さんにお世話になった関係で大変なつかしいものでした。それにしても墓目幹事長、若山副幹事長のいつもながらの並々ならぬ御努力、母校愛というものには全く感服のほかありません。あたかも緑丘会本部が大阪にあるが如き感を禁ずることができません。

内地も台風一過幾分朝晩は涼しくなりましたが、まだまだ残暑がきびしいことと思えます。私も早いもので当地へ赴任以来ちよろど一年たつてしまいました。今年は去年に比べると比較的涼しいようで、空気が乾いていますので誠に気持ちのよい気候です。もともとこちらの盛夏は四一六月ですから今は秋ということになります。いまでは生活にも慣れ、味気のない生活ながらもそれはそれなりに楽しんでおります。住めば都という言葉は確かにおもしろい言葉と思えますね。

内地も経済情勢に好転のきざしが見えているようですが、まだまだやりにくいことも多いと存じます。何卒緑丘諸兄のご健斗をお祈りしています。

十月四、五の両日、伊勢在住の井上君の肝入りで参宮を兼ね志摩観光に出かける。早やめに計画して各地の会員諸君に呼びかけたが、肝腎の大阪方に不参者多く、わずかに四

緑会 志摩回遊記



四日正午、宇治山田駅前集合。貫録十分の功刀君、スマートな文人神沢君が井上君とともに待っていた。神沢君とは四十年ぶりの邂逅。井上君の勤める真珠会館に入り数々の真

珠を鑑賞、それぞれ孫や子どもの土産にと買いかめては良いお爺ちゃんぶり。大広間で同君もてなしの寿しで腹を作させ、二台の車を駆って参宮。外宮、内宮と順をおって参拝したが、往時には昼なお暗く生い茂っていた老杉、古木も伊勢湾台風にあつて枝は朽ち折れて見る影もなく、五十鈴の清流も昔日の清澄さなく、神前に額づきても「何事のお在しませぬか知らねども……」と西行法師の感懐が湧かないのは我れ人共に同じだろうか？ それにしても参る人の心は区々ならんも訪ふ人の足絶えぬは今もなお日本人の胸底に小泉八雲のいわゆるオーガニックメモリが残されているためか？あるいは等しく訪ふ外人客と同一類か？

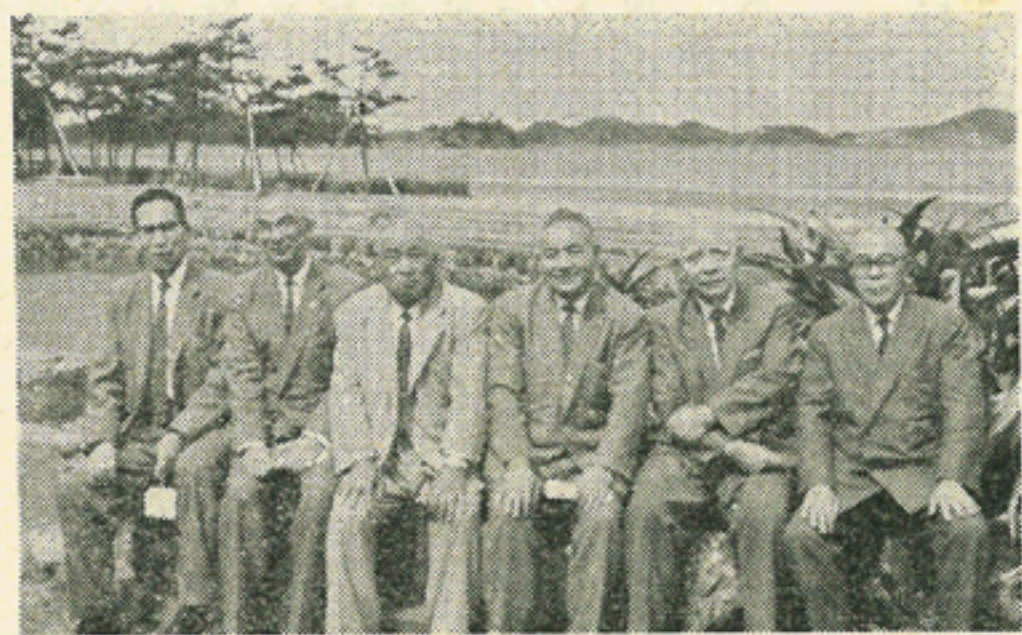
んというお江戸人形町出身の名妓こまで辿りついた彼女の四十余年の人生航路は問うほど野暮。さて、三味をとっては爪弾きの音もあざやかに、ノドまたいうに棄て難く老爺連たちまち紀大尽よろしくの態となり、功刀君は小唄「心して」「虫の音」とイキな所を御披露におよび、神沢、四谷両君は長唄、竹村君は御国自慢の土佐節を出し、老生また「槍さび」「青柳」等々の俗曲で悦に入り、特に功刀君はノドを振りしぼっては小唄「心して」を何回も何回も繰り返えし歌って興を添え、井上君のみは持つて生まれた恵比須顔（神戸の某知名の士が天下の福相なりと激賞したとのこと）よろしく歌わぬ人をききこんで専ら接待役を務めてくれた。

比にあらず、軽いタッチで画いた南面のその如く兩岸に連なる小丘の起伏、あるいは深くあるいは浅く切りこまれた支溝や幾数十の入江、点在する島々が天然の美を織りなし、船上しばし感歎したことだった。湾内一面に幾何的模様を浮かぶといわれる養殖筏の上にはアコヤ貝の手当にいそむ三々五々の男女の群れも散見され、暖を取る焚火の煙が潮風にたなびいて名画の景観をひき立てている。

舟遊半時間余にして賢島に着き鳥羽に向い御木本真珠館を訪う。阿波幸の若子として生をうけた御木本幸吉氏が人工真珠の養殖に心を傾け産を蕩尽して失敗に失敗を重ね、齢三十三才にしてようやくその発明に成功、人類の長い夢を実現して後年世界の御木本真珠翁となり、九十六才の天寿を完うしたことは人の知るところ。館内に陳列された高貴な真珠や華麗な真珠塔もさることながら記念館の一隅に掲げられた三尺大の写真の一つには特に目をひいた。それは発明苦心の難行中ついに顧みる人もなく敵衣を纏ってただ一筋にアコヤ貝を見つめる御木本夫妻の姿であり、これこそこよなき無言の人生訓である。

海女の実演も旅客を喜ばせていたが、単に若く遅ましく伸びきった白衣の女性の躍動のみが見せ場のようにならぬ、やはり海女の良さは夫のたぐる命綱をたよりに生活と闘いながら外海に働く女群に尽きると思われた。さらに一行は宇治山田を経て松阪に出た。国学者本居宣長出生の地。

その記念館を訪ねた後、松阪肉で有名な和田金に立ち寄る。功刀君や井上君のPRもあり日本一の肉を食うために空腹を辛抱してきた午後二時半。ここ和田金は明治六年の創業。十年の暖簾は古式の家構えにも調度品にも窮われ、市販には到底見られぬヒレ肉の美事さ。幾歳月を物語る炭火のコンロ台、第一スキヤキのやり方が異っている。女中さんが一寸



(左から) 竹村、神沢、功力、井上、四谷、宮地

いぬ間に誰れかが心得顔にまぶつてスキ鍋をコンロにかけていたが怒られて爆笑。女中さんは手早くコンロから鍋を下し、まず油をとかして鍋の冷めるのを待って割り下を注ぎその上に一枚一枚と肉を並べ砂糖を配しておもむろにコンロにかけた。一同なるほどと肯く。実にうまい、話に聞いたがこれほどうまい肉は六

十年の生涯でいまだ食ったことがない。食うは食うは、またたく間に六人前二四〇匁をたいらげて、さらに二人前八〇匁を追加した。老人連かくの如し、若い人たちなら何程食うだろうか？

土産にとこの肉を注文したが、これは市販せぬ。これより一つ下の肉を分けてもらったが、これも暖簾の格式というものだろう。それでも市販の肉より余程上等なるは保証しておく。聞けば和田金では地方から牛を買入れて牧場に放ち、半年の間飽食させ、ときにはビールまで飲ませて遊ばせておくという。フト皮肉な考えが頭に浮かぶ。もし人間より一枚上の奴がいて人間を牛のような運命の下におき美食を与えても果して肥え太るだろうかと。

和田金から宣伝料をもらった訳ではないからこれくらいにしておこ

それにしても本当に良い旅行だった。一同再会を約して松阪駅頭にて袂を別った。互いに振る手にも惜別を覚えながら……午後四時半。

竹村君持参のキャラメルは永くこの旅行を記念してくれるだろう。

なお一行の申し合わせとして「お互いに四十五年記念とか五十年記念とか気長なことをいってはおれぬ、もつと気楽な気持ちで毎年でも集まろうじゃないか。来年の春は功刀君が主催してくれて浜名湖か蒲郡に遊ぼう。ちょうど東京と大阪の中間だから東京の諸君も来るだろう」と。来年のことをいえば鬼が笑うかも知れぬが会員諸君に予告しておく。

(宮地記)

運搬界の夢を実現した

KYCコンベヤ

光洋機械工業株式会社

取締役社長 奥村正美 (昭和17年)

本社 大阪市北区南同心町1丁目12 TEL大阪 3091 (代)

東京支店 東京都千代田区神田小川町2丁目3 (井上ビル) TEL東京 (291) 1216. 1309

九州営業所 福岡市中浜口町43番地 TEL福岡 1841

冷暖房及び管工事全般設計監督施工

日邦工業株式会社

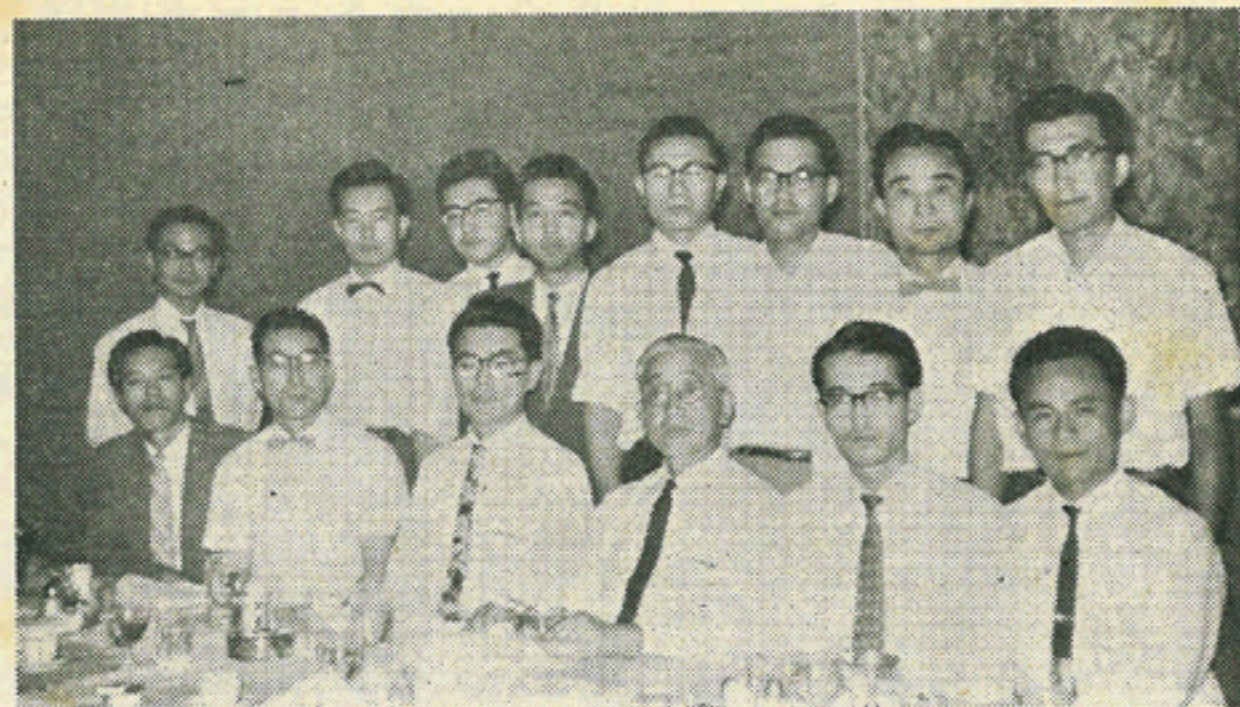
取締役社長 井 藁 政 市

相談役監査役 宮 地 邦 介 (大11)

大阪市西区南堀江通1丁目2番地 電話大阪 2290 5616 2794番

工場 大阪市大正区南御加島町二丁目二七二番地

出張所 横浜市鶴見区東寺町七二五番地 電話 鶴見 2303番



第1回 東海銀行 千代田火災 中央信託 合同みどり会 8.20.

台風十二号が近づいた八月の二十日、茶谷先輩の経営するレストラン「畑々」において、東京在住の東海銀行、千代田火災、中央信託の緑丘会員十四名出席のもとに、第一回合同みどり会を開催しました。

当日は東海銀行の信託分離にもなつて、中央信託に転出された林(昭二九)田川(昭三六)両氏の送別会を兼ねて集まつたもので、台風接近の報にもかかわらず時間前には全員出席。サッポロ・ビールで乾盃の後懇談に入り、自称昭和十三年卒業の古関先輩の小樽行きのおきさつに始まり、伴先生、浜林先生の回顧談を中心とする自己紹介。ついで出席等全員の緑丘の思い出を盛り込んだ、古き(?)良き時代の紹介があつて、時の経つのも忘れ欲談しました。終りに全員の記念写真と、現在単身サンフランシスコ在住の毛利氏(昭三〇)に寄せ書きを送り、盛会のうちに解散しました。

なお当日の出席者は、古関周蔵(大一三)河野俊吉(昭十六)境裕村上充(昭二五)森田徹郎、山本洋三(昭二六)泉安治、笠原繁三(昭二八)池田皓一、林忠正(昭二九)市川健(昭三二)小野田満之助(昭三三)田川政夫(昭三六)漆崎福男(昭三七) (小野田生記)



古関千代田火災会長

丸嘉機械株式会社

「緑丘会」開催

(昭和三十七年度)

六月十五日、本年入社された小林明夫君の歓迎会を兼ねて、久しぶりに社内緑丘会を開いた。

場所はニューミュンヘン。小林君のためにも、渴いた我々の喉のためにも、もっと早い機会に開催すべきだった。

しかし、三月入社以来社内教育においてニューギューンしめつけられていた小林君には酒の香りを思い出す余裕もない程だったのでのびのびになつていた。

在阪最多数グループを誇る丸嘉機械緑丘会はまた多士済々でもある。意のままに飲みつづけさせると、ビールがいくらあつても足らなくなつた。小林君は十分にサカナにされてしまった。

先輩づらして大きなことをいっても、新鮮な後輩と語り、飲むのはこの上もなく楽しいことなのだ。

たくましい発展のエネルギーをもつた後輩を持つということは素晴らしいことだ。小林君!! 丸嘉機械緑丘会!! 発展のための努力を寸刻を惜しんで続けよう。そしてまた語るう!! 出席者は

常務若山永太郎(昭一三)以下次の通り。牧野正治(昭一一)勝股一哉(昭二九)松尾俊彦(昭三四)角响(昭三四)田辺靖雄(昭三五)赤谷



昭和十二年卒二十五周年記念祭を東急ホテルで開催 昭和十二年に卒業した諸兄は十月三〇日吉米地・木部・南・大谷・先生をお迎えして、東急ホテルで賑々しく旧交を温めた。

良士(昭三六)小林明夫(昭三七)なお、東京支店に支店長高野憲一郎(昭一三)菊地敏夫(昭二〇)がいる。

大阪支部 十月十日会

八月度十日会

第四十四回 昼食会

椎名元教授が出席され箱根でゴルフをしてのゴルフ観について特に今の学生(関西学院)の純真さを語る。他の出席者はゴルフに縁のない連中であつたか第一、ゴルフをやる今の若い奴はネと青年ゴルフアークさ下ろしの日であつた。

椎名幾三郎(元教授)宮地邦介(大一)大久保鹿式(大一)黒羽秀夫(昭二)畑信太郎(大一四)玉井英雄(昭四)宇山慶三(昭四)藪目英三(昭一一)若山永太郎(昭一一)

九月度十日会

第四十五回 昼食会

本日の出席者は特に少なかった。話題としては子女の結婚問題について親の考え方を語り、畑信太郎氏令息の九州北海道サイクリングの記事が産経新聞に発表されたので話題となつた。

(出席者) 大久保鹿式(大一)堂城不二人(昭二)玉井英雄(昭四)畑信太郎(大一四)石田平八(昭二)

十月度十日会

第四十六回 昼食会

時候もよく今日の集りは優秀の部に属す。大野先生の退職に対する慰

労金の送金方法について語り合った結果、成る可く沢山各人の分に応じて各個人で送金していただき度という結論に達した。

大野先生退職慰労金 をお忘れなく。

(出席者)

宮地邦介(大一)大久保鹿式(大一)畑信太郎(大一四)天野雅司(大一五)堂城不二人(昭二)黒羽秀夫(昭二)樋山三郎(昭三)玉井英雄(昭四)矢部三郎(昭一一)若山永太郎(昭一一)山家利典(昭一三)十二名

編集後記

◎大野先生特集号を発刊しました所早速ハガキや手紙による沢山の讃辞を賜りまして有難く御礼申し上げます。これで歴史的な記録を完成したと思えますとホッとしてしばし次の編集に手がつきませんでした。特集号は二冊合併号でありましたため今月号は旧聞に属す記事もありませんことを御諒承下さい。

◎前回封入しましたアンケート用紙御手数でも一筆書いて御投函下さい

◎次号は小樽特集号です。一月中旬を目標に準備中でございます。

◎三十七年度は三月中旬発刊の「緑丘」を以て今年度を終ります。

◎本部会報もこの「緑丘」に合併して発刊の日の来ることを期待しつゝ。



日立家庭電器特約店

日電家庭電器販賣株式会社

取締役社長 天野雅司(大正15年)



本社 大阪市福島区海老江上1丁目18 電話(45)1744.2362~3.3483.3486
京都営業所 京都市下京区五条通高倉西入万寿寺町146 電話(55)1935.4782
神戸営業所 神戸市東灘区御影町石屋字狭間185の1 電話(55)6750.6360
高槻出張所 高槻市大字高槻444 電話(5)0506